

年  
報  
32

# 年 報 32

2015年度  
(平成27年度)

平成二十七年度

二〇一六・九

山梨県埋蔵文化財センター

2016. 9

山梨県埋蔵文化財センター

# 年報 32

2015年度  
(平成27年度)

2016. 9

山梨県埋蔵文化財センター



# 序

山梨県埋蔵文化財センターが開所 33 年目となる平成 27 年度に実施しました発掘調査事業・考古資料の普及活用事業・史跡の活用事業の概要を報告いたします。

記録保存目的の本格的な発掘調査は、県内 9 力所で実施されました。主なものとしては、甲府城跡の調査として県庁構内遺跡で甲府城追手門に関わる礎石などが確認され、遺構は養生のうえ現地で埋設保存されました。甲府城下町遺跡では江戸時代初期の礎石建物跡などが見つかり、当時の町屋の構造が明らかになりました。中央自動車道笛吹スマートインター建設に伴う身洗沢遺跡の調査では弥生時代の数多くの木製品が発見され、県内の弥生時代遺跡研究のうえで貴重な事例となりました。

遺跡の整備事業としては、県指定史跡甲府城跡で継続的に実施している石垣補修事業を、稻荷曲輪北面部分の石垣で実施しました。

遺跡の試掘調査や立会調査を行う県内遺跡分布調査は、試掘調査が 6 件、立会調査が 21 件、整理作業が 1 件、踏査が 1 件の合計 29 件実施されました。試掘調査では、主なものでは国道 358 号（甲府市右左口）拡幅工事に伴うものが数日間にわたって実施されたものの、他の試掘個所も含め、遺構・遺物の発見には至りませんでした。立会調査では財務省所有地における埋設物掘削調査（縁が丘一丁目遺跡）において縄文土器と古墳時代の土師器を確認でき、甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業（谷村城）においては遺跡の広がりや遺構の良好な残存状態を確認できました。

情報発信としましては、これまで信州大学付属図書館（全国遺跡資料リポジトリプロジェクト）との連携により運用されてきた発掘調査報告書の電子公開が、昨年 6 月から（独）国立文化財機構奈良文化財研究所において「全国遺跡総覧」として統合され、引き続き信州大学の協力のもとで推進しております。

東日本大震災から 5 年半が経過しています。山梨県教育委員会では被災地に一日も早い復興を願い、当センター職員を平成 23 年度から宮城県に 2 年間、岩手県に 1 年間、福島県南相馬市に 1 年間派遣し被災地復興に協力して参りましたが、本年度は福島県教育委員会に 1 名の職員を派遣しております。

当センターでは今後とも埋蔵文化財・史跡の調査研究・保護・保存・活用に努めて参りますので、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

平成 28 年 9 月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 中山 誠二



# 目 次

## 序

凡例・平成 27 年度発掘調査等遺跡位置図・職員組織

## 第Ⅰ章 平成 27 年度の事業概要

1	発掘調査等	1
2	整理作業	1
3	資料普及事業	2
4	収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧	4
5	第 28 回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	8
6	遺跡調査発表会	8
7	シンポジウム・講演会	9
8	知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展 2016	10
9	広報誌「埋文やまなし」	10
10	県指定史跡甲府城跡活用事業	11
11	平成 27 年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会関東甲信越静地区会議	13
12	遺跡データ管理（GIS）	13
13	報告書リポジトリ	13
14	埋蔵文化財センター県北収蔵庫遺跡まなび館	13
15	寄贈・購入図書	14

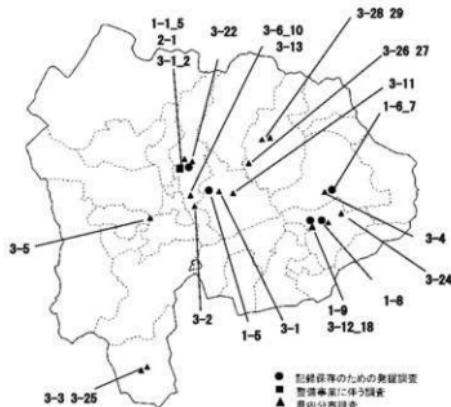
## 第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1	記録保存のための発掘調査	
1-1	甲府城跡（県庁構内：東門周辺地点・前庭地点・西門周辺地点）	15
1-2	甲府城跡（県庁構内立会調査）	18
1-3	甲府城下町遺跡（試堀・立会調査）	23
1-4	甲府城下町遺跡（駅前広場トイレ建設地点）	27
1-5	甲府城下町遺跡（旧柳町一丁目地点）	28
1-6	身洗沢遺跡 C 区	30
1-7	大石遺跡	32
1-8	堂地遺跡 5 区	34
1-9	谷村城	35
1-10	三ノ側遺跡（県立都留興譲館高等学校地点）	37
2	整備事業に伴う調査	
2-1	県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業	39
3	県内分布調査	41

## 第Ⅲ章 県内の概況

1	届出件数と内容	57
2	発掘調査	57
3	県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡	57
4	発掘調査の成果と保存整備事業	57
5	発掘調査体制	58
	届出件数の推移・発掘調査件数の推移・平成 27 年度県内発掘調査一覧表	59

## 凡 例



平成 27 年度 発掘調査等遺跡位置図

- 1 本書は、平成 27 年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2 本書の編集は、石神孝子・小池準一・米田明訓が行った。
- 3 平成 27 年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は平成 28 年 3 月末日現在で集計したものである。
- 4 第 2 章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（ ）内は、調査対象面積である。
- 5 左記の地図は、平成 27 年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1 頁の発掘調査の表に対応している。

## 平成 27 年度 職員組織

所	長	出	月	洋	文
次長(兼)	保坂康夫				
総務課長(兼)	保坂康夫				
調査研究課長	山本茂樹				
史跡資料活用課長	今福利恵				

總務課	
副主査	深沢武人
主任	中山尚行
主任	浦郷敬
主任	安野綾夏

調査研究課 調査第一担当	
主幹・文化財主事 (南相馬市災害派遣)	吉岡弘樹
主幹・文化財主事	浅川一郎
主任・文化財主事	正木季洋
非常勤嘱託	長田隆志

史跡資料活用課 資料第一担当	
副主幹・文化財主事	宮里学
文化財主事	須長愛子
文化財主事	久保田健太郎
臨時職員	小池準一

調査研究課 調査第二担当	
副主幹・文化財主事	田口明子
主幹・文化財主事	篠原真史
文化財主事	御山亮済
非常勤嘱託	上野桜

史跡資料活用課 資料第二担当	
主査・文化財主事	石神孝子
主幹・文化財主事	吉田秀樹
専門員	米田明訓
非常勤嘱託	加々美鮎実

調査研究課 調査第三担当	
主査・文化財主事	網倉邦生
主任・文化財主事	柴田亮平
文化財主事	熊谷晋祐
非常勤嘱託	塙谷風季

# 第Ⅰ章 平成 27 年度の事業概要

## 1 発掘調査等

平成 27 年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

### 1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名他	番号	調査名他
1・1	甲府城跡（県庁構内：東門周辺地点・前庭地点・西門周辺地点発掘調査）	1・7	大石遺跡（国道 20 号大月バイパス改築事業）
1・2	甲府城下町遺跡（県庁構内立会調査）	1・8	堂寺遺跡（国道 20 号大月バイパス改築事業）
1・3	甲府城下町遺跡（玉坂、立会地区）	1・9	谷村城（甲府地方家庭裁判所都留支部分新庁舎事業）
1・4	甲府城下町遺跡（駅前広場トイン建設地点）	1・10	三ノ瀬遺跡（集会都留谷村高等学校建設事業）
1・5	甲府城下町遺跡（田舎町一丁目地点）		
1・6	身洗沢遺跡 C 区（笛吹スマートインターチェンジ建設事業）		

### 2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名他
2・1	県南定期甲府城跡石川維持管理事業

### 3) 県内分布調査

番号	事業名他（試験調査）	番号	事業名他（立会調査）
3・1	県営御坂町地全面の改善事業（後原遺跡傍地）	3・16	県立谷村工業高校第五棟基礎撤去及び立木抜根作業（三ノ瀬遺跡）
3・2	国道 508 号（甲府市右口）拡幅工事（南戸沢遺跡）	3・17	県立佛縁遺跡設置物撤去（三ノ瀬遺跡）
3・3	中部横断自動車道（南都町矢張地区）建設工事	3・18	甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎改築事業（電柱移設）（谷村城）
3・4	国道 20 号大月バイパス改築事業（JR 地区）（花夷用水閑遺跡）	3・19	甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎改築事業（地盤処理等）（谷村城）
3・5	富士川河辺地盤整備事業	3・20	甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎改築事業（設備配管工事）（谷村城）
3・6	県立柏原光学園グラウンド排水改修工事等（糸原遺跡）	3・21	旧甲府地方法務局整理施設耐震調査（甲府城下町遺跡）
3・7	曾根丘陵公園防災公園整備工事（トイレス入路工事）	3・22	財務省所有地における埋設物調査（緑が丘一丁目遺跡）
3・8	曾根丘陵公園防災公園整備工事（芝生広場周回道路）	3・23	県立中央病院跡地草壁整備工事（富士見一丁目遺跡に近接）
3・9	曾根丘陵公園防災公園整備工事（ごく高等敷去）（上の平遺跡等）	3・24	リニア見学センター・バス停機トレイ設置工事（神大原遺跡に近接）
3・10	曾根丘陵公園防災公園整備工事（ごく高等敷去）（もんかん古墳古墳近傍）	3・25	火打石急傾斜地崩壊対策事業（火打石遺跡）
3・11	曾根丘陵公園防災公園整備工事（考古博物館までの進入路）	3・26	一般国道 411 号遠藤共同工事（第 1 工区）
3・12	県立谷村工業高校校門立木抜根作業（考古博物館までの進入路）	3・27	一般国道 411 号遠藤共同工事（第 2 工区）
3・13	県立谷村工業高校校門立木抜根作業（考古博物館までの進入路）	3・28	宮當施設機能保全事業基礎の整理（般林遺跡・安道寺遺跡）
3・14	県立谷村工業高校第一排煙去及び立木抜根作業（三ノ瀬遺跡）	3・29	宮當施設機能保全事業詳細分布調査（般林遺跡・安道寺遺跡）
3・15	県立谷村工業高校内立木抜根作業（三ノ瀬遺跡）		

## 2 整理作業

平成 27 年度の整理作業は、以下のとおりである。

### 1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	甲府城跡（県庁内面開闢化等整備事業：県庁構内）	5	大石遺跡（国道 20 号大月バイパス改築事業）
2	甲府城下町遺跡（甲府駅前南北ロータリー：試査）	6	堂寺遺跡（国道 20 号大月バイパス改築事業）
3	甲府城下町遺跡（南戸沢修景計画：甲府城下町中央分離帯地点）	7	三ノ瀬遺跡
4	身洗沢遺跡（笛吹スマートインターチェンジ建設事業）		

### 2) 本格的整理作業

番号	遺跡名
1	甲府城下町遺跡（古府中縄状浅孔探査街路事業）
2	谷村城（甲府地方家庭裁判所都留支部分新庁舎建設事業）

### 3) 報告書刊行一覧

番号	報告書名
第308集	甲府城下町遺跡（旧柳町一丁目地点）
第309集	山梨県内分布調査報告書（平成 27 年 1 月～12 月）

### 3 資料普及事業

平成 27 年度に実施した事業は、県内の小中学校等へ出向いて「古代の体験」(土器作り・火起こし体験など)に関する支援を行う「出前支援事業」を実施し、授業の中で児童生徒のみなさんが、地域の歴史に興味関心をもつきっかけの場を提供した。また発掘調査の現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」では、広く一般の方々に土器や石器を掘り出すワクワク感を味わっていただき、足下に眠る歴史に興味をもってもらった。この他にも講座・講演会等への講師派遣や、学校の教職員を対象とした、授業への埋蔵文化財の活用をはかるための「古代を実体験! 授業づくり研修会」、一般の方々を対象とした遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡調査発表会などを実施した。また考古博物館との共催事業としては 11 月 20 日(県民の日)に「古墳でマツリ」、1 月 30 日には「古墳でさがしモノ」、3 月 6 日には「古墳で勇者」と称した、国指定史跡銚子塚古墳を会場とする一連の古代体験イベントを開催し、子供から大人まで楽しみながら地域の歴史を学ぶ機会を提供した。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火起こし道具など考古資料の貸出も行った。また、文化庁の史跡等総合活用支援推進事業に関する国庫補助金を受けて、県指定史跡・甲府城跡を会場に、「ひらけ!玉手箱リターンズ」を開催し山梨の伝統技術や文化を体験するイベントをはじめ、展示会・子供から大人まで各年齢層にあった学習会・甲府城の歴史や石垣の技術を知ってもらうための体験イベントなどを実施した。年度末には、当センターと県内市町村教育委員会が平成 27 年度に実施した発掘調査・整理作業などの最新の成果を公開する「知ろう山梨の歴史! 山梨の遺跡発掘展 2016」を開催した。



出前支援事業（土器作り）



出前支援事業（土器に触れて見学）



埋文シンポジウム



遺跡現地説明会



発掘体験セミナー



職場体験（注記作業）



古代を実体験! 授業づくり研修会



県民の日イベント～古墳でマツリ～



春まつり～古墳で勇者～

平成27年度 山梨県埋蔵文化財センター 普及事業集計表

## 4 収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出し一覧（入件順）

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	4.1～平成 28.3.31	県立北杜高等学校	郷土教育に活用するため	原町農業高校前遺跡 鐵文土器 3 点
2	4.1～平成 28.3.31	山梨中銀金融資料館	貨幣史コーナーに展示するため	金の尾遺跡 弥生土器 1 点
				花鳥山遺跡 石器 10 点
3	4.1～平成 28.3.31	山梨平和ミュージアム	常設展に展示するため	旗部遺跡 燒夷彈 1 点
				塙部遺跡 燒夷彈彈頭 1 点
4	4.1～平成 28.3.31	北杜市教育委員会	常設展に展示するため	横野前久保遺跡 石器 25 点
				天神遺跡 鐵文土器 2 点
				柳井遺跡 鐵文土器 1 点
				寺所遺跡 鐵文土器 1 点
				守門遺跡 土師器 7 点
				城下遺跡 灰釉陶器 1 点
				城下遺跡 綠釉陶器 1 点
				天神遺跡 土偶 1 点
				天神遺跡 石器 37 点
				天神遺跡 鐵文土器 10 点
				城下遺跡 石製品 2 点
				東原遺跡 羽口 2 点
				東原遺跡 土器 1 点
				東原遺跡 石器 1 点
5	4.1～平成 28.3.31	山梨市フルーツパーク㈱	『甲州果物発展史』コーナーに展示するため	大師東丹保遺跡 タルミ 16 点
				大師東丹保遺跡 カヤ 3 点
				大師東丹保遺跡 トチ 1 瓶
				大師東丹保遺跡 モモ種子 7 点
6	4.1～平成 28.3.31	南アルプス市教育委員会	ふるさと伝承館に常設展示するため	百々遺跡 土器ほか 21 点など
				横畠遺跡 土器ほか 119 点
7	4.1～平成 28.3.31	総務省管財課	防災新幹石垣展示室に展示するため	甲有城跡 桐木 6 点
8	4.10～平成 28.3.31	県立博物館	常設展示するため	原町農業高校前遺跡 鐵文土器 1 点
9	4.27～4.28	駒台中学校	土器作り体験の事前学習のため	甲ヶ原遺跡 鐵文土器 1 点
				南山前 C 遺跡 鐵文土器 1 点
				御坂バイパス間違道路 鐵文土器片 40 点
10	5.1～平成 28.3.31	山梨中銀金融資料館	貨幣史コーナーに展示するため	米倉山 B 遺跡 青銅 1 点
11	6.19～平成 28.3.31	県立博物館	常設展示するため	大師東丹保遺跡 形代 2 点
12	6.27～平成 28.3.31	県立宝石美術専門学校	ジュエリーミュージアムに展示するため	東山北遺跡 水晶原石
				甲ヶ原遺跡 水晶原石
				大戸戸遺跡 石器 1 点
				美通遺跡 耳飾 1 点
				大木戸遺跡 耳飾 1 点
				塙部下原遺跡 垂飾 1 点
				頬無遺跡 大珠 1 点
				金の尾遺跡 垂飾 1 点
				金の尾遺跡 管玉 1 点
				東山北遺跡 勾玉 1 点
				四ツ塚古墳群 勾玉 1 点
				双葉 2 号墳 切子玉 3 点
				考古博物館構内古墳 勾玉 3 点
				考古博物館構内古墳 丸玉 16 点
				米倉山 B 遺跡 管玉 2 点
13	7.7～9.13	県立博物館	開館 10 周年記念特別展「大化石展」に展示するため	横野前久保遺跡 石器 21 点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
14	7. 24 ~ 9. 20	茅野市尖石灘文考古館	特別展「縄文土器造形の頂点 5000 年後の競演」に展示するため	安道寺遺跡 安道寺遺跡 上野原遺跡 甲ヶ原遺跡
				圓文土器 2 点 圓文土器片 4 点 深鉢形土器 1 点 圓文土器 2 点
15	8. 20 ~ 12. 11	長野県立歴史館	秋季企画展「樹木と人の交渉史」に展示するため	甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 甲斐銚子塙古墳 天神遺跡 天神遺跡
				円盤形木製品 3 点 麻子形木製品 2 点 棒状木製品 6 点 木製品組み合わせ復原品 3 点 圓文土器 1 点 圓文土器 1 点
16	9. 1 ~ 11. 30	十日町市博物館	秋季特別展「縄文後期の墓 桑ノ木田遺跡」に展示するため	金生遺跡 金生遺跡
17	9. 8 ~ 平成 28. 2. 10	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館企画展「北杜の土偶」に展示するため	頭無遺跡 頭無遺跡 柳坪遺跡 上平出遺跡 天神遺跡 甲ヶ原遺跡 海道前 C 遺跡 原町農業高校前遺跡 若神子・守屋ヶ原地内
				土偶 (レプリカ) 1 点 土偶 4 点 土偶 3 点 土偶 2 点 土偶 2 点 土偶 34 点 土偶 7 点 土偶 97 点 土偶 1 点
18	9. 17 ~ 12. 20	秩父堂道路博物館	特別展「縄文人と動物たち」に展示のため	甲ヶ原遺跡 花鳥山遺跡 安道寺遺跡 安道寺遺跡 一の沢遺跡
19	10. 2 ~ 12. 2	県立博物館	常設展に展示するため	重郎原遺跡
20	10. 13 ~ 平成 28. 3. 31	国立科学博物館	特別展「ワイン展」に展示のため	甲府城跡
21	平成 28. 3. 1 ~ 8. 31	甲府市薬業部商工課	甲府市中央市街地ストリート再生事業「木品の歴史について学ぼう」に展示のため	八幡神社遺跡
				水晶製石器 1 点

### 古代衣装貸出一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	5. 29 ~ 6. 23	鈴江市立第一小学校	生活科の授業で使用	貴頭衣 胡服 巫女 女官 官吏
				2 着 2 着 2 着 2 着 2 着
2	10. 8 ~ 10. 24	海老名市教育委員会	相模国分寺むかしまつりで使用	貴頭衣 胡服 巫女 女官 官吏
				2 着 2 着 2 着 2 着 2 着

**収蔵画像資料貸出・撮影許可一覧（入件順）**

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	3月26日	草刈朋子	不定期刊行雑誌『うかうか』に掲載のため 海道前C遺跡	深鉢形土器1点
			海道前C遺跡	石棒1点
2	4月3日	久慈玻璃博物館	企画展「縄文文化の“赤”と“緑”」の展示解説パネルに掲載のため 天神遺跡	ヒスイ大珠出土状況1点
3	4月2日	(株)宝島社	『別冊宝島 素晴らしい日本の起源』に掲載のため 海道前C遺跡	深鉢形土器1点
			海道前C遺跡	石棒1点
4	4月9日	(株)歌文社	『日本の歴史 私の最新講義』シリーズ『縄文社人の生活世界』に掲載のため 中谷遺跡	敷石住居跡全景写真1点
5	4月15日	(有)リタビックチャル	ドキュメンタリー「縄文人にハマる人々」 考古博物館常設展 で使用のため	縄文土器・土偶展示風景1点
6	4月17日	津南町教育委員会	『津南学 vol.4』に掲載のため 酒呑堀遺跡	ダイズ压痕土器ほか2点
7	5月15日	(株)同成社	『遺跡博物館論』に掲載のため 上の平遺跡	全景航空写真1点
			考古博物館・甲斐銚子塚古墳・丸山 古墳	全景航空写真1点
8	6月3日	(株)生活の友社	『月刊アートコレクターズ7月号』に掲載 のため	深鉢形土器1点
9	6月9日	(株)新泉車	沿楽博巳著『(十二支)の動物たちの考古学』 に掲載のため 一の沢遺跡	土偶2点
10	6月10日	長野県立歴史館	『長野県立歴史館だより vol.84号』に掲載 のため	円盤形・戴手形・棒状木製品出 土状況1点
11	6月9日	(株)浜島書店	『学び考える歴史改訂版』、『学び考える歴 史デジタル版』に掲載のため 殿林遺跡	石皿1点
			甲ヶ原遺跡	磨石1点
12	6月23日	(株)小学館	『日本美術全集』第1巻『日本美術創世記』 に掲載のため 殿林遺跡	深鉢形土器1点
			一の沢遺跡	深鉢形土器集合1点
13	6月26日	ほうざき書籍(株)	田中清文著『仮面の土偶』に掲載のため 中條遺跡	土偶1点
			宮之上遺跡	深鉢形土器1点
14	7月1日	県立博物館	開館10周年記念特別展「大化石展」で使 用するため 横封前久保遺跡	石器21点
15	7月4日	茅野市尖石縄文考古館	特別展「縄文土器造形の頂点 5000年後の 鏡鏡」のポスター・チラシ等に掲載のため 安道寺遺跡	深鉢形土器2点
			安道寺遺跡	把手残欠4点
			上原野遺跡	深鉢形土器1点
			甲ヶ原遺跡	深鉢形土器2点
16	7月7日	小林武人	屋覧会「Art of Jomon」への出品作品制作 及び制作工程をインターネットメディア、 印刷物へ掲載のため 海道前C遺跡	深鉢形土器1点
			原町農業高校前遺跡	深鉢形土器1点
			甲ヶ原遺跡	深鉢形土器1点
17	7月14日	(株)雄山閣	李国棟著『稻作文化にみる中国貴州と日本』 に掲載のため 安道寺遺跡	有孔跨付土器1点
18	7月23日	長野県立歴史館	秋季企画展「樹木と人の交渉史」の展示・ ポスター・チラシ等に掲載のため 甲斐銚子塚古墳	木柱1点
			甲斐銚子塚古墳	円盤形土器3点
			甲斐銚子塚古墳	戴手形土器2点
			甲斐銚子塚古墳	棒状木製品6点
			甲ヶ原遺跡	斜溝土器1点
			天神遺跡	斜溝土器1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
19	7月27日	(株)KADOKAWA	新人物文庫『ここまでわかった! 古代王権と古墳の謎』に掲載のため	甲斐銚子塚古墳・丸山塚古墳 全般航空写真1点
				甲斐銚子塚古墳 円盤形・蒙手形・棒状木製品集合写真1点
				甲斐銚子塚古墳 木柱出土状況1点
20	8月17日	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館企画展「北杜の土偶」の展示パネル、ブックレットに掲載のため	頭無遺跡 土偶4点
				柳坪遺跡 土偶3点
				上平出遺跡 土偶2点
				天神遺跡 土偶2点
				甲ヶ原遺跡 土偶34点
				南道前C遺跡 土偶7点
				原町農業高校前遺跡 土偶97点
				若神子・守屋ヶ原地内 土偶1点
21	8月18日	L V S テレビ制作(株)	日本テレビ「ザ!鉄腕DASH!!」に23回で使用のため	甲府城跡 右垣裏葉石写真3点
22	8月31日	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館企画展「北杜の土偶」の展示パネル、ブックレットに掲載のため	酒呑湯遺跡 土偶集合1点
				一の沢遺跡 土偶2点
23	9月4日	駿遊堂遺跡博物館	特別展「織文化と動物たち」の展示パネル、図録に掲載のため	甲ヶ原遺跡 深鉢形土器1点
				花鳥山遺跡 深鉢形土器1点
				安道寺遺跡 深鉢形土器1点
				安道寺遺跡 有孔跨付土器1点
				一の沢遺跡 深鉢形土器1点
24	9月15日	(株)グレイル	『天皇陵と消えた都の謎』に掲載のため	甲斐銚子塚古墳・丸山塚古墳 全般航空写真1点
25	10月10日	下諏訪町立諏訪湖博物館・赤堀記念館	「星ヶ塔遺跡国史跡指定記念シンポジウム」資料集に掲載のため	花島山遺跡 石器集合1点
26	10月15日	国立科学博物館	特別展「ワイン展」の展示パネル、ガイドブック、展示紹介映像に掲載のため	甲府城跡 ワインボトル8点
				葡萄酒醸造所開達遺構2点
27	10月29日	(有)データワールド	『やってみよう!はじめてのむかしあそび』 『第3巻おはじき／ビー玉』に掲載のため	懶川河岸跡 泥まんこ集合1点
28	11月3日	(株)ネクサス	テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」において使用のため	天神遺跡 深鉢形土器1点
29	11月13日	ほうづき書籍(株)	田中清文著『仮面の土偶』に掲載のため	桂野遺跡 人面装飾1点
				桂野遺跡 土偶装飾1点
				西原遺跡 人面装飾1点
30	1月5日	やまなし県民文化祭実行委員会	第15回やまなし県民文化祭総合舞台「城の日」のポスター、チラシ、プログラムに掲載のため	甲府城跡 復元金箔城瓦1点
31	2月4日	(株)平凡社地図出版	『日本歴史大地图』に掲載のため	甲斐銚子塚古墳・丸山塚古墳 全般航空写真1点
32	2月5日	(株)平凡社地図出版	『日本歴史大地图』に掲載のため	甲府城跡 航空写真1点
33	2月16日	フォックスマダナミュージアム	『What's Jade』(『ヒスイってなんだろう』英語版書及書)に掲載のため	天神遺跡 ヒスイ製大珠1点
34	2月19日	(株)清水書院	『高等学校日本史B』新訂版に掲載のため	岡遺跡 容器形土偶一对1点
35	2月22日	(株)石文社	長澤宏昌著『今、先祖親を聞く~埋葬の歴史と現代社会~』に掲載のため	宮の前遺跡 埋甕出土状況1点
				支石墓イラスト1点
36	3月1日	中央市長	『くらしのガイドブック中央市生活便利帳』に掲載のため	小井川遺跡 全般写真1点
37	3月10日	(株)平凡社地図出版	『日本歴史大地图』に掲載のため	甲府城跡 鉄門全景1点

## 5 第 28 回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

平成 28 年 3 月 26 日（土）27 日（日）に実施した甲府城シンポジウム「野面積みサミット」を市町村研修会の一環とした。当該シンポジウムは、史跡整備に関わる露出造構の土木構造物的な特徴について考えるものである。そこで、整備に際した調査、整備手法、維持管理の視点について共有する目的で、市町村埋蔵文化財専門職員研修会を兼ねることとした。

シンポジウムにおける各報告については次の 9 ページを参照。



## 6 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県考古学協会と共に開催している。県内の最新発掘情報や広く県民に発信する場であり、スライドなどを使用したわかりやすい発表となっている。また、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

### ○平成 27 年度上半期遺跡調査発表会【参加者 91 名】

開催日時：平成 27 年 10 月 30 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 50 分

開催場所：風土記の丘研修センター 講堂

発表 1 甲斐市：松ノ尾遺跡（発表者 甲斐市教育委員会 長谷川哲也）

発表 2 笛吹市：竹居古墳群（発表者 帝京大学文化財研究所 宮澤公雄）

発表 3 南アルプス市：下宮地遺跡（発表者 南アルプス市教育委員会 斎藤秀樹）

発表 4 甲府市：甲府城跡（山梨県庁構内確認調査・東門地点・前庭地点）

（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 正木季洋）

発表 5 甲府市：甲府城下町遺跡（都市計画道路地点第 2 次）（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 御山亮済）

### ○平成 27 年度下半期遺跡調査発表会【参加者約 60 名】

開催日時：平成 28 年 3 月 12 日（土）午後 1 時 00 分～4 時 10 分

開催場所：帝京大学文化財研究所 大ホール

発表 1 笛吹市：身洗沢遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 柴田亮平）

発表 2 甲斐市：大庭遺跡（発表者 甲斐市教育委員会 大島正之）

発表 3 北杜市：寺所遺跡（発表者 NPO 法人茅ヶ岳歴史文化研究所 小熊 詩音）

発表 4 甲府市：国指定史跡武田氏館跡（発表者 甲府市教育委員会 鷹野義朗）

発表 5 茜崎市：国指定史跡新府城跡（発表者 茜崎市教育委員会 山下孝司）

## 7 シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会としては、考古学と関連諸分野の研究者との連携により実施した埋蔵文化財シンポジウムや、その時々のテーマでの講演会などを実施し成果を上げてきた。平成 27 年度は、縄文土器に関するシンポジウム・甲府城石垣に関するシンポジウムを実施した。

### ●シンポジウム「土器から読む縄文世界」 平成 27 年 11 月 22・23 日（日・祝）

山梨県出土の縄文土器は、重要文化財に殿林遺跡や一の沢遺跡、积迦堂遺跡、鈎物師屋遺跡といった多くの我が国を代表するものがある。こうした縄文土器は美的観点のみならず社会的な側面をも反映しており、縄文社会を読み解いていくために多様でユニークな視点で縄文土器研究が進められてきている。気鋭の研究者による視点でさまざまな角度から切り込んだ縄文土器研究の成果から縄文社会の実像について考える機会とした。

シンポジウムでは基調講演として縄文土器研究の県内重鎮による基調講演をもとに、最前線の縄文土器研究を各種取り上げて、そのまとめとして発表者相互による座談会形式の質疑をしながら縄文社会へ迫った。

#### 〈講演〉

基調講演「縄文土器文様の物語性」 小野正文 氏（山梨県甲州市教育委員会）

講演 1 「土偶装飾付土器と顔面装飾の付く土器」 中山真治 氏（東京都府中市ふるさと文化財課）

講演 2 「縄文土器の文様構造と造形デザイン」 石井匠 氏（國學院大學博物館）

講演 3 「縄文土器にみられる象徴的思考」 中村耕作 氏（國學院大學栃木短期大学）

講演 4 「縄文土器文様から読み解く地域間の集団」 宮尾亨 氏（新潟県立歴史博物館）

講演 5 「土器文様からみる縄文集落内の集団」 今福利恵 氏（山梨県埋蔵文化財センター）

### ●シンポジウム「野面積み石垣サミット－近世城郭の野面積み石垣を考える－」

平成 28 年 3 月 26・27 日（土・日）

甲府城は、豊臣時代の文禄・慶長年間に築城され、現在は当時の野面積み石垣が良好に残る県指定史跡である。今回のシンポジウムは、国指定史跡化を念頭に開始した石垣整備等が四半世紀を迎えたことをきっかけに、甲府城の野面積み石垣の歴史的・文化的価値を全国の城郭との比較検討を通じて再評価・再確認する機会とした。

今回は、天正から文禄・慶長年間に造られた野面積み石垣を対象に、石垣の積み方・隅角部・勾配・石材加工、内部構造、地盤等をテーマに各担当者の報告をもとに、甲府城の再評価に繋げる機会とする。またパネルディスカッションでは、大規模かつ良好に石垣が残る特別史跡肥前名護屋城、東国近世城郭の先行事例史跡石垣山、同時期城郭史跡武田氏館跡や史跡松本城、そして同じ豊臣家が築城した黒史跡郡山城との血縁者城郭の比較検討を行い、甲府城野面積みの価値に迫った。

#### 〈講演〉

基調講演「いまなぜ、甲府城石垣なのか」 北垣聰一郎 氏（石川県金沢城調査研究所）

報告 1 「史跡石垣山の野面積み石垣」 土屋了介 氏（神奈川県小田原市文化部文化財課）

報告 2 「史跡松本城の野面積み石垣」 田多井用章 氏（長野県松本市教育委員会）

報告 3 「特別史跡肥前名護屋城跡の野面積み石垣」 市川浩文 氏（佐賀県立名護屋城博物館）

報告 4 「黒史跡郡山城の野面積み石垣」 十文字健 氏（奈良県大和郡山市教育委員会）

報告 5 「史跡武田氏館跡の野面積み石垣」 佐々木満 氏（山梨県甲府市教育委員会）

報告 6 「県指定史跡甲府城跡の野面積み石垣」 宮里学 氏（山梨県埋蔵文化財センター）

シンポジウムコーディネーター 北野博司（東北芸術工科大学教授）

## 8 知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展 2016

この展示会は、県民の埋蔵文化財に対する理解と、郷土への歴史的認識を深めてもらう機会として例年開催し、今年で28回を数える。開催期間は平成28年3月12日～4月10日までとし、県立考古博物館企画展示室を会場とした。今年度は、発掘調査された最新の情報を時代ごとに展示する他、資料の活用の視点を加え、5部構成とした。

第1部は「最新情報 繩文時代」と題し、県内で注目を集めた発掘調査成果を紹介した。笛吹市馬場遺跡では、早期の土器破片資料がまとまって出土しており、早期の遺跡分布を知る上で貴重な発見となった。甲州市影井遺跡では出土土偶が出土し、韋崎市宿尻遺跡でも土偶の出土が見られたことから、最新の土偶を紹介する機会となった。また北杜市原町農業高等学校前遺跡では、繩文時代中期の大集落の一端を垣間見ることのできる大型の深鉢形土器を展示了した。大月市大石遺跡では、繩文時代中期の土器片が出土した。

第2部は「最新情報 弥生～古墳時代」と題し、甲斐市松ノ尾遺跡など特に話題になった遺跡が集中する。松ノ尾遺跡は、弥生時代後期から古墳時代の遺跡であり、方形周溝墓と集落跡が確認されている。今回は県内でも最大級の赤彩壺が出土し、話題となった。笛吹市身洗沢遺跡では、弥生時代後期でも若干古相の土器群の出土が見られた。また、併せて古墳時代中期の土器群が見られ、県内では稀少な資料として注目された。甲斐市大庭遺跡は、古墳時代後期の横穴式石室を持つ古墳として発見され、鍍金が施された馬具をはじめとする豪華な副葬品が出土したことで話題となった。

第3部は「最新情報 平安時代」と題し、甲州市の市道に係る一連の発掘調査成果を紹介した。甲州市大木戸遺跡、ケカチ遺跡は平安時代の大集落として知られ、か帶が出土するなど役所的な性格が色濃い遺跡と考えられる。また北杜市寺所遺跡は、鍛冶に関わる豊富な遺物をはじめ多数の墨書き土器が、上原遺跡からも平安時代の豊かな暮らしを知ることができる資料の展示をおこなった。一方、都留市三ノ側遺跡は、遺跡の性格と広がりを確認する上で、他地域との交流を知ることのできる資料を展示了した。

第4部は「最新情報 中世～江戸時代」と題し、武田氏館跡や新府城など、パネルを中心とした展示等をおこなった。甲府城跡は県庁構内の発掘調査成果や甲府城石垣補修成果をパネルで紹介した。都留市谷村城は、豊富な出土遺物を展示することで、谷村城下の豊かな暮らしを紹介した。

第5部は「発掘調査を活かす」と題し、当センターがこの1年に県内外で実施してきた教育普及事業を紹介した。県内の学校への繩文土器作り体験や古代の火起こし体験などの出前支援事業、甲府城跡や銚子塚古墳などの史跡を活用したイベントの実施、数多くのイベント活動等を紹介した。また、県内分布調査の成果や福島県で行っている東日本大震災復興支援の様子をパネル展示了。

## 9 広報誌「埋文やまなし」

### 第48号

- ・最新調査の成果・埋蔵文化財活用事業・みんなで作ろう！埋文クラフト・所長所感

本号では、編集・発行時点での発掘調査と資料活用事業の成果を掲載した。連載企画として「みんなで作ろう！埋文クラフト」、コラムとして「東北派遣事業の報告」もおこなった。このように「埋文やまなし」の本来の意義である山梨県埋蔵文化財センターの活動を広報することに重点をおいた内容とした。

### 第49号

- ・最新調査の成果・埋蔵文化財活用事業・柴田さんの発掘ワンポイント・みんなで作ろう！埋文クラフト・所長所感  
48号に引き続き、編集・発行時点での当センターの活動のに重点を当てた編集方針となっている。

### 第50号

- ・発掘調査速報・「埋文やまなし」の歴史・資料普及の仕事・みんなで作ろう！埋文クラフト・コラム甲府城研究室久保田普請方教授の甲府城石垣の秘密スポットを紹介

50号を迎えるにあたり、8ページ構成とした。発掘調査速報は5遺跡をとりあげ、活用事業では27年度の主な事

業の紹介をおこなった。特に発掘調査速報については、遺構と遺物の記事を分け、執筆者に各遺跡の価値付けをおこなうなどの編集上の変更を加えた。48号～50号をつうじて、山梨県埋蔵文化財センターの活動を広報する内容とした。

## 10 県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年から県土整備部主導で舞鶴城公園整備事業に着手し、文化財の保護と安全性の向上等を目的として城内の整備を実施してきた。また、平成16年には稲荷櫓が、平成25年には鉄門が復元整備され、公開されている。埋蔵文化財センターでは、これらを拠点として、地域活性化や甲府城跡の歴史的風格を高めることを目的として年間を通して様々な活用事業を実施している。平成26年度は、甲府城跡や甲府城跡における石垣にどのような文化財的価値があるかについて、調査研究の成果をもとに教育普及する活動（青空教室、甲府学問所、城下町散策会など）と、城内での和楽器演奏会や鬼ごっこなどを通して広く県民に甲府城跡に親しみをもつてもらう機会をつくる活動の2種類のイベントを実施した。

### （1）信玄公祭り関連「甲府城発掘展」

信玄公祭りの開催に伴い、鉄門2階を会場とした甲府城に関する展示を行った。平成2年以降の発掘調査の様子やその成果をみることのできるパネル写真を展示了。また信玄公祭り関連イベントである「甲州寺子屋」において、出月洋文所長（当時）が甲府城の近代化と城内での調査などに関する講演を行った。

### （2）「青空教室」（小中学生編、一般編）

築城期の野面積み石垣がもつ文化財的価値について、現地を歩きながら解説するものである。7月末から8月末にかけての夏休み期間に合計5回の小中学生編を、8月2日から3月2日までの毎月2日（1月は不実施）に一般編をそれぞれ実施した。

小中学生編は、石積み体験キット「石垣つめる君」を併せて活用することで楽しみながら石垣の構造や、石積みの伝統技術について学習する機会となった。

### （3）「甲府学問所 徹典館」

甲府城と城下町について、これまでの調査成果を丹念に読み解く講座で、2月を除く8月から3月までの毎月第3火曜日に実施した。甲府城の歴史、遺構や石垣等の解説、史料読解、城下町の発掘成果、近代以降の甲府城について、解説した。史料の読解は、演習形式で実施した。

受講者は、各自が関心を寄せるテーマについてレポートを作成し提出した。

### （4）「甲府城饗宴」（和楽器演奏会）

10月3日（土）に鉄門2階にて、箏、三絃、尺八による和楽器演奏会を実施した。県立大学筝曲部「和楽」が演奏を担当し、復元された鉄門のお城らしい雰囲気の中で和楽器の演奏を合計約90人が楽しんだ。演奏の合間に甲府城に関するクイズを挿入することで、甲府城の歴史や石垣の特徴などを学ぶ機会としても活用することができた。

### （5）「甲府城で鬼ごっこ」

5月9日（土）に、稲荷曲輪にて小学生を対象に実施した。平安時代にまで起源が遡る歴史的な鬼ごっこ「ことろことろ」を体验したほか、手つなぎ鬼や陣取り合戦方式のもの等、様々な形式の鬼ごっこを参加者が楽しんだ。また、開始前に甲府城の歴史や非常に古い時期の石垣が甲府城跡に残っていることを解説し、会場が貴重な文化財の残る県指定史跡であることの周知を図った。

## (6)「甲府城下町散策会」

平成 27 年 11 月 20 日（金）に、甲府城下町に残る文化財を見学する散策会を実施した。甲府城下町の南東域に展開する町人地に焦点を当て、甲府城下の形成や当時の暮らしに関わる地形・造構・建造物等を散策しつつ、都市甲府の歴史・文化的価値を再発見・再確認してもらう機会とした。

## (7)「ひらけ！玉手箱リターンズ」

山梨の伝統技術や江戸時代の遊び、食材などに親しむ機会として企画した文化財のお祭りで、11 月 23 日（月）に、県指定史跡甲府城跡稻荷曲輪、本丸にて実施した。1 t 近い巨石の石曳きや、石積み体験キット、弓矢や吹き矢、大工仕事、火起こしなどを体験できるほか、甲府の伝統野菜「長禅寺菜」を味わうブースや、甲府と関わりの深い金魚にちなんだ金魚すくいを体験できるブースも設置した。



青空教室の様子



甲府学問所の様子



和楽器演奏会の様子



甲府城で鬼ごっこ の様子



城下町散策会



甲府城シンポジウム



ひらけ！玉手箱の様子（石曳き体験）



ひらけ！玉手箱の様子（石積み体験）

## 11 平成27年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会関東甲信越静地区会議

平成27年度の関東・甲信越・静岡ブロック会議は、平成27年12月4日(土)に山梨県防災新館会議室を会場として、開催した。幹事機関は山梨県埋蔵文化財センターが務め、9機関18名の参加があった。会議は、各機関から提出された照会事項の協議を行った。テーマとしては、普及活動の他部局との連携状況や発掘調査現場で使用するデジタルカメラの活用や記録保存方法など、8件が挙げられた。一方公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会より依頼のあつた協議事項については、公立埋蔵文化財センター連絡協議会設立30周年事業について及び、平成28年度文化庁要望について、意見交換等をおこなった。

会議終了後、山梨県庁構内に所在する山梨県指定有形文化財（建造物）山梨県庁舍別館（旧本館）及び同館内の「近代人物館」及び防災新館地下の「甲府城石垣展示室」を観察した。「近代人物館」では、第2回展示「世界をみつめた山梨の人々」のほか、常設展示を見学した。「甲府城石垣展示室」では、防災新館建設時に確認された甲府城創建時に遡る石垣を見学した。



会議の様子



甲府城石垣展示室観察

## 12 遺跡データ管理 (GIS)

平成27年度の遺跡管理システム(Geographic Information System)に登録した遺跡の発見や範囲の変更については、2件であった。内訳は、遺跡の発見(1. 北杜市 中原遺跡、2. 甲州市 宮光園)2件、遺跡範囲の変更修正は0件であった。

## 13 報告書リポジトリ

平成26年度までに第298集まで実施し、平成27年度には、299集から307集までの9冊を山梨遺跡資料リポジトリへPDFデータを提供した。また6月には、これまで信州大学付属図書館（全国遺跡資料リポジトリプロジェクト）との連携により運用されてきたが、(独)国立文化財機構奈良文化財研究所において「全国遺跡総覧」として統合され、閲覧先が <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/19> へと変更になった。

## 14 埋蔵文化財センター岐北収蔵庫遺跡まなび館

平成26年度で遺物台帳整備が完了している。甲府城跡出土の新収蔵資料があり、まとめた収蔵のため若干の収蔵整理と移動を行った。あわせて酒呑場遺跡土器等の出土品の再分類および台帳作成作業にかかり、岐北収蔵庫内の収蔵資料について部屋ごとの現収蔵量と収蔵余量を精査し、出土品を活用できるよう整えた。

## 15 寄贈・購入図書

図書は、毎年度約3,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館などの企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書・学術雑誌を購入している。

平成27年度は2,488冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は30冊である。総登録数102,656冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約113,656冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

平成25年度以降、峡北収蔵庫跡跡まなび館への図書の搬出・整理を行っており、ある程度の収蔵スペースの確保は行われているが、依然として年々増加していく図書の収蔵スペースの確保が問題となっている。

## 第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

### 1 記録保存のための発掘調査

#### 1-1 甲府城跡（県庁構内：東門周辺地点・前庭地点・西門周辺地点）

所在 地 甲府市丸の内一丁目6-1

事 業 名 県庁舎耐震化等整備事業

調査期間 平成27年4月16日～30日（東門周辺地点第1次）

平成27年9月10日～18日（東門周辺地点第2次）

平成27年6月15日～7月30日（前庭地点）

平成27年11月4日～11月9日（西門周辺地点）

調査面積 約450m<sup>2</sup>（東門周辺地点第1次：約40m<sup>2</sup>、東門周辺地点

第2次：約10m<sup>2</sup>、前庭地点：約390m<sup>2</sup>、西門周辺地点：  
約10m<sup>2</sup>）

相 当 者 浅川一郎・篠原真史・正木季洋・久保田健太郎

本発掘調査は、県庁舎耐震化等整備事業外構整備工事に伴うものであり、調査地点は山梨県庁の東門付近、前庭、西門付近の3地点である。確認調査および立会調査において遺構が確認されたため発掘調査を実施した。

#### 1 東門周辺地点第1次

平成27年4月12日に、甲府城の追手門付近に該当する県庁東門北側にて、県庁敷地境界の旧擁壁撤去工事および植栽帯擁壁設置工事に伴う立会調査を行った。その結果、石垣構築材と思われる複数の石材を検出したため発掘調査を実施した。調査の結果、検出された石材は甲府城追手門の北側に隣接する東西方向の石垣の南面と北面の根石付近部分であることが確認された。石垣は野面積みであることから甲府城築城当時のものと考えられる。

4月23日に現地にて文化財審議会史跡部会を開催し、その指導をもとに設計を変更し、石垣は埋設保存することとなった。

#### 2 東門周辺地点第2次

平成27年9月10日に、甲府城の追手門に該当する県庁東門にて、排水溝設置工事に伴う立会調査を行った。その結果、追手門の礎石と思われる石材2石を検出したため発掘調査を実施した。調査の結果、検出された石材は甲府城追手門の正面側（東側）に設置されていた礎石であることが確認された。北側の礎石上面には門の柱を立てた長方形のホゾ穴と、扉の軸をささえる円形の軸摺穴があつたことから甲府城築城期のものと思われる。また、北側礎石の東西は割られているが、これは明治以降の掘削工事に際して割られたものと思われる。

9月10日に現地にて文化財審議会史跡部会を開催し、その指導をもとに設計を変更し、礎石は埋設保存することとなった。

#### 3 前庭地点

平成27年6月8日に、甲府城の楽屋曲輪に該当する県庁前庭にて、水景施設建設工事に先立ち確認調査を実施した。その結果、石垣と思われる石積みの一部を確認したため発掘調査を実施した。



甲府城跡（県庁構内）位置図

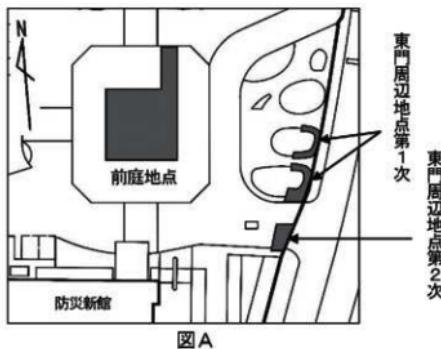
調査の結果、石積みは南北方向の石垣であった。調査区南部で石垣の南端が認められたが、北は調査区外へ続いていた。確認された長さは約22m、幅は約2mで、高さは最大約1mが残存していた。石材の加工の状況から石垣は江戸時代に何回か改修された様子がうかがわれる。石垣上部には近代以降に加工がおこなわれた割石が多くみられた。また、石垣の東側に沿って石組水路が設置されており、水路の南端には木桶が埋設されていた。石垣の南側には東西方向の石組水路が検出されたが、石組の層位が近代の面であることや江戸期の甲府城内の遺構にはほとんど使用されない花崗岩の河床礫が構築材に使用されていることなどから、甲府城廃城後に構築されたものと思われる。石垣より西側の範囲では、近・現代の瓦溜りが確認されたが甲府城に係わる遺構は確認されなかった。

6月24日に現地にて文化財審議会史跡部会を開催し、その指導をもとに設計を変更し、石垣や水路は埋設保存することとなった。

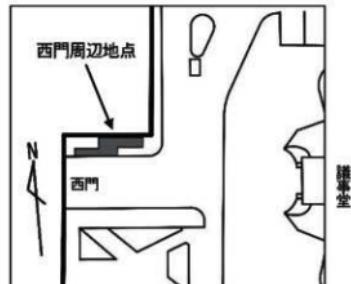
#### 4 西門周辺地点

平成27年10月30日に、甲府城西側の堀に面した石垣や土塁に該当する県庁西門にて、電気配管埋設工事に伴う立会調査を実施した。調査の結果、堀に面した石垣と思われる石材を検出したため発掘調査を実施した。

調査の結果、石材は南北方向の石垣の一部であり、長さは南北に約2m、高さは約1.5mの規模で確認された。南へは連続せず、北側は県庁敷地外となる。矢穴などの石材加工の状況から甲府城築城期に構築された石垣と考えられる。江戸時代中頃の絵図から調査地点は南北方向と東西方向の石垣が接する入隅部分に推定されるが、東西方向の石垣は確認されなかった。石垣は電気配管経路を変更することにより現地に埋設保存することとなった。



図A



図B

調査地点位置図



東門周辺地点第1次：北面石垣



東門周辺地点第1次：南面石垣



東門周辺地点第2次：礎石



前庭地点：調査風景



前庭地点：石垣全景



前庭地点：石垣西面



前庭地点：石組水路



西門周辺地点：石垣

## 1-2 甲府城跡（県庁構内立会調査）

所在 地 甲府市丸の内一丁目6-1ほか  
事 業 名 県庁舎耐震化等整備事業  
調査期間 平成27年4月3日～平成28年3月2日  
調査面積 約5,044m<sup>2</sup>  
担 当 者 宮里学・浅川一郎・篠原真史・正木季洋・久保田健太郎・御山亮済・上野桜

県庁舎耐震化等整備事業（県庁構内外構整備工事、県民会館解体工事）に伴い立会調査を実施した。

調査の結果、県庁構内外構整備工事では石垣、礎石、石組水路、石列、土壙版築層、瓦溜りのほか詳細が不明な石組遺構や孤立礎などが検出された。また、遺物としては瓦溜り以外からも瓦が出土し、少量の陶磁器類も出土した。検出された遺構のうち、県庁東門地点で検出された追手門の石垣と礎石および西門地点で検出された堀に面した石垣は、重要度が高いことから工事を中断して発掘調査を実施し、その後に埋設保存した。その他の石組遺構も工事と並行して調査・記録し、必要に応じて工事の設計変更を行いすべて現地に埋設保存した。土壙版築層は範囲と層相を記録した。瓦溜りは範囲を記録し瓦を回収した。瓦溜り以外の瓦や陶磁器類も回収した。

県民会館の解体は既掘の範囲内で終了したため遺構・遺物の保護措置の必要はなかった。

今回の立会調査により、甲府城跡の遺構や遺物は適切に保護、回収された。



甲府城跡（県庁構内立会調査）位置図



立会番号7：樹木植穴掘削（石組）



立会番号10・11：擁壁等撤去（追手門石垣）



立会番号18：電気配管埋設（石組水路）



立会番号20：電気配管埋設（石組水路）



立会番号 26：給水管埋設〈石組水路〉



立会番号 30：四阿建設〈石組水路〉



立会番号 35：排水溝設置〈追手門礎石〉



立会番号 37：電気配管設設〈石組水路〉



立会番号 37：電気配管埋設〈柳門石垣〉



立会番号 51：鋼取り〈石列〉



立会番号 65：県民会館解体工事



出土遺物例

# 平成27年度県庁構内外構整備立会調査一覧

立会 №.	工事内容	測定時期	調査担当	調査地点	歴史的位置	調査面積 (m)	掘削深度 (m)	検出遺物	備考
1	排水渠等設置	平成27年4月3日	正木・浅川・藤原、 委員会室機原	北別館南～委員会室機原	委員会曲輪・二ノ丸	19	0.45	-	なし
2	電気配管用渠、照明基礎設置	平成27年4月 8:30-10:22	正木・浅川	北別館南～委員会室機原	委員会曲輪・五郎 石垣基部	49	0.6～ 0.71.0	-	なし
3	給水管埋設	平成27年4月9日	正木	議事堂北西(日昇書店前)	柳樹門周辺	32.4	0.3～0.7	-	なし
4	給水管埋設	平成27年4月20日	正木・浅川	北別館南～委員会室機原	委員会曲輪・五郎 石垣基部	57	0.7	-	なし
5	積石塗覆	平成27年4月14日	正木	委員会室機原	委員会曲輪・二ノ丸	60	0.3	-	砂や土ののみの層削。
6	電気配管用渠、照明基礎設置	平成27年4月14日	浅川	議事堂北西(日昇書店前)	柳樹門周辺	5.5	0.5～1.1	-	なし
7	樹木根穴削除	平成27年4月23日	浅川・正木・宮里	委員会室機原裏	委員会曲輪・石垣	16	1.8	0.5	石組
8	雨槽・古井・目甲箱・学校記念 碑設置	平成27年4月24日	浅川	委員会室機原	委員会曲輪・石垣 基部	3	0.25	-	なし
9	排水渠設置	平成27年4月6日	正木・浅川	議事堂南 (日騰の庭北側)	委員会曲輪	18	1	0.95	瓦當
10	排水渠等敷設	平成27年4月 7:30-10:13、6月23日	正木・宮里・ 鍋山	県庁東門・動物地獄界 (日騰の庭南側)	委員会曲輪・通手 門周辺	39	0.5～0.7	0.5	通手門石垣
11	樹木根穴削除設置	平成27年4月14～ 16日、5月25～29日	正木・浅川	県庁東庭新設部分 (日騰の庭東側)	委員会曲輪・通手 門周辺	60	0.3～1.5	0.5	通手門石垣
12	排水渠設置	平成27年4月13日	浅川	本館前庭(日昇山)	委員会曲輪	25	0.3～0.7	-	なし
13	樹木根・桟橋根回し掘削	平成27年4月13日	正木	別館西端新設部分 (日騰の庭東側)	委員会曲輪	930	1.5	-	なし
14	樹木移植回し掘削	平成27年4月17日	正木・久保田	別館西端新設部分 (日騰の庭東側)	委員会曲輪・五郎 石垣	9	1.1	-	なし
15	給水管埋設等	6月18日	浅川	委員会室機原 (日騰の庭)	委員会室機原	28	0.7～1.2	-	なし
16	外灯・ペーパードホルダ・様石撤去 等	平成27年5月13日	久保田・浅川	別館東部新設部分 委員会室機原	委員会曲輪	18	0.35～0.7/ 1.0	-	なし
17	積石塗付	平成27年5月13日	浅川・正木	別館東部新設部分 (日騰の庭)	委員会室機原	65	0.3～0.8	-	なし
18	電気配管埋設、照明基礎設置	18:30-20:21日	浅川・宮里・鍋山・ 上野・正木	委員会室機原 (日騰の庭)	委員会室機原	40	0.7～ 0.9～1.5	0.7	石組水路
19	雨水排水渠設置	平成27年5月27日	浅川	西門北側	柳樹門周辺	14	0.8～1.5	0.4	土管等
20	電気配管埋設、照明基礎・ハン ドホール設置	平成27年6月8～8 日7日、10日-15日	正木・浅川	柳樹門周辺	委員会曲輪	230	0.7～ 0.9～1.3	石組水路、 65、不明 F、瓦面	約350 m、東西10 m、南北で幅 約10 m、高さ1 m、斜面 約70 m、傾斜度1.0 mは昭明基盤 部分。 105年完成設計図による遺構検査出深 度の10 cm上まで削削。 約85 m。

立会 №	工事内容	測定時期	調査担当	調査地点	歴史的位置	調査面積 (m)	掘削深度 (m)	邊溝底 深さ (m)	検出遺構	検出遺物	備考
21	樹木掘穴開削	平成27年6月 8:9~15日	荒川	委員会室舎 - 丁番東部開 (今池の底)	豪屋曲輪	68	0.2 ~ 0.9	-	なし	瓦	瓦出土は1つの穴のみ。
22	発取り	平成27年6月10日	正木	別館東部斜面裏野	豪屋曲輪	141	0.4	-	なし	瓦	傾斜度は傾斜壁面を頂部から下へ 約9°。護岸部分は0.6 m。無収土。
23	ポンプ室・フェンス設置	平成27年6月10~11日	荒川	別館東部(今池東部) 本館前面(今池山)	豪屋曲輪	41.5	0.5~0.9 1/2	-	なし	瓦	施設深度は東部で1.2 m、南東部 で0.9 m、その他0.5 m
24	発取り	平成27年6月16~17日	正木・荒川	委員会室舎側～別館東 部	豪屋曲輪・石垣	930	0.5	0.5	石垣	石垣は每隔間を1m規	
25	排水渠設置	平成27年6月 18~19・22~25日	荒川	委員会室舎側～別館東 部	豪屋曲輪・石垣	63	0.5	-	なし	瓦	
26	給水管埋設	平成27年6月19~22 日、10・15日	正木・荒川	別館南	豪屋曲輪	45	0.7 ~ 0.8	0.5	石組水路	瓦	約70 m、遺構は廃設保有。
27	空調屋外機・フェンス設置	平成27年6月22日	荒川	別館西北部	豪屋曲輪	30	0.9	0.7	礫石	礫石は明治期の立てて輸出されたもの	
28	西門内衛生施設	平成27年7月2日	荒川	西門	豪門近接地	7.7	0.75	0.45	瓦	瓦	瓦
29	西門内衛生施設	平成27年7月2日	荒川	西門内近接地	7	0.7	-	なし	瓦		
30	西阿(東駅)建設	平成27年7月6日	正木・荒川	別館西北部 (今池の底側西側)	豪屋曲輪	42	0.9	0.6	石組水路	瓦	水路は廃設保有と前項で検出され られたが、中央部は現段階で消失。遺構 は廃設保有。
31	レンガ舗装施設工事	平成27年7月14日	荒川	議事堂西西	豪門近接地	6.5	0.45	-	なし	瓦	砂石層のみの確認。
32	黒炉防護施設工事	平成27年7月31日	正木・荒川	議事堂南 (今池の底側北側)	豪屋曲輪	2.9	1	-	なし	瓦	
33	樹木抜根	平成27年8月3日	荒川	議事堂南 (今池の底側北)	豪屋曲輪	7.5	0.5	-	なし	瓦	植栽帯等の施設が施設。
34	樹木掘穴開削	平成27年9月8日	正木	議事堂南 (今池の底側北)	豪屋曲輪	6	0.9	0.5	瓦面	瓦	
35	排水渠設置	平成27年9月10日	正木	通手門	通手門	5	0.6	0.2	追手門	なし	
36	排水渠設置	平成27年9月10~12日	正木	通手門	追手門	14	0.2 ~ 0.7	0.3	石垣	なし	
37	電気配管整型・照明基礎・ハ ンドホール設置	平成27年9月10 ~ 12日 18時	正木・荒川	議事堂側～西、財務別館、西 門周辺(西門から北までの底)	豪屋曲輪・石垣	160	0.6 ~ 1.2	0.4 ~ 0.7	石塊、砾石、 石、土質層	瓦	遺構は廃設保有。
38	木造施設(木造施設	平成27年9月14~15日	荒川	本館北底部	豪屋曲輪	57	3.5	-2.2	瓦盤	瓦	-2.2 mで瓦張り層(厚さ20 cm)。
39	排水渠設置	平成27年9月28日	正木	駐輪場東	豪屋曲輪	2.5	0.7	0.7	石列	なし	石垣は立会番号37で検出のもの。排水 渠は立会番号より上位まで確認。
40	樹木抜根	平成27年9月29日	正木	議事堂南 (今池の底側北)	豪屋曲輪	5	0.5	-	なし	瓦	
41	排水渠設置	平成27年9月30日	正木	議事堂 - 別館間(今池～での底)	豪屋曲輪	16	0.7 ~ 1.3	-	なし	立会番号39の結果、変更された排水 渠。	
42	排水渠設置	平成27年10月3日	荒川	東門前歩道	通手門	5.5	0.6 ~ 0.9	0.4	石垣裏裏層	なし	立会番号35の結果、変更された排水 渠。
43	木造施設(木構造張糸水管 設置)	15~16・21日	正木・荒川	本館 - 労働旅館裏	豪屋曲輪	83	0.7 ~ 1.7	-	なし	瓦	立会番号38で検出の瓦闌より上位ま での確認。
44	排水渠設置	15~19日	正木	議事堂西	豪屋曲輪	33	0.5 ~ 0.6	0.45	土質層	瓦	土質層は北部で確認。
45	給水管埋設	16~19日	正木	本館 - 労働旅館裏	豪屋曲輪	9	0.7	-	なし	瓦	
46	樹木掘穴開削	19~21・23日	荒川	議事堂 - 別館間(今池～での底)	豪屋曲輪	40	0.6 ~ 0.8	0.7	石列・瓦闌	瓦	排水穴は16個。遺構は廃設保有。

立会 No.	工事内容	調査時期	調査地点	歴史的位置	測定深度 (m)	鉛直度	検出箇所	備考
							土器・石棺	土器・不明
47	樹木遺構	平成27年10月20日	丸川・正木	西門	13	0.6	-	なし
48	既往埋設物除去	平成27年10月20日	正木	西門北東	26.5	1.2	0.3	盛土内の掘削。 油槽は土器層中に埋設された。油 槽は形と位置で既設区分。
49	樹木遺構、廻り取り	平成27年10月 26・27・30・31日	正木・丸川	調査室前植栽帯	60	0.8	-	なし
50	電気誘導装置、照明基礎設置	平成27年10月 27・30・31日、11月9日	正木・丸川	西門	20	0.5~1.0	0.3	石垣 瓦 石垣突出し、発掘調査実施。
51	廻り取り、排水溝設置	平成28年1月27日 日・12月15・18日	丸川	調査室西	520	0.3~0.5	0.5	石垣水路、 石垣・土器層 排水溝の跡線に排水溝設置。遺構 は既設区分。
52	樹木遺構	平成27年11月4日	正木	軒輪跡東	12	0.35~0.4	-	なし
53	排水溝設置	平成27年11月4日	正木	西門北東	15	1.4	0.4	石垣、土器 層 石垣
54	給水管敷設	平成27年11月 4・5・6日	正木・丸川	別廻り南北	29	0.7	0.6	礫石(原地) 瓦 土器
55	排水溝設置	平成27年11月10日	正木・丸川	西門地盤	3.5	0.65	-	なし
56	給水管敷設	平成27年11月12日 日・12月24日	正木・丸川	軒輪跡北	4.5	0.6~0.8	-	なし
57	電気誘導装置、照明基礎設置	平成27年11月16日	丸川	西門南東	14	1.0~1.5	-	なし
58	廻り取り、排水溝設置	平成27年11月24日、 14・15・19・25・28日	正木・丸川	西門周辺	480	0.3~0.6	0.4~ 0.6	石垣、不明 石、土器層 石垣
59	電気誘導装置、照明基礎設置	平成27年12月7日	丸川	本施設前面	8.5	0.7/1.1	-	なし
60	廻り取り	平成28年1月7日	正木	軒輪跡北	12	0.45	-	なし
61	給水管敷設2段階	平成28年1月8日	正木	西門前歩道	石垣・壁	1.2	1.2	なし
62	樹木遺構	平成28年1月26日	丸川	西門像北植栽帯	調査曲輪、土器	1.5	0.5	なし
63	廻り取り	平成28年1月27日	丸川	西門周辺	土器・石垣	37	0.1~0.2	なし
64	給水管敷設、蓄水器設置	平成28年2月8・9日	丸川・正木	西門周辺	調査曲輪、土器・ 石垣	13	0.7	石垣水路 瓦
65	飛民地盤、地下下陷地盤、廻り取り等	平成28年2月 3・9日	丸川	県民会館跡地	壁・石垣	215	1.5	なし
66	樹木遺構	平成28年2月16日	丸川	西門周辺	土器	4	0.7	なし
67	ダスク風呂設置、廻り取り等	平成28年3月2日	正木	東門前の歩道～車道	道・石門	8	1.0~1.5	なし

### 1-3 甲府城下町遺跡（試掘・立会調査）

所在地 甲府市丸の内一丁目 2-14 他 甲府駅南口  
 事業名 甲府駅南口周辺地域修景計画  
 調査期間 平成 27 年 4 月 8 日～平成 28 年 3 月 31 日  
 担当者 今福利恵・浅川一郎・宮里学・久保田健太郎・御山亮済・上野桜

調査地点は、相川扇状地の扇端部、相川の中下流左岸に位置し、標高 273 ～ 274m を測る。周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たり、甲府城下町遺跡のうち、甲府城一の堀と二の堀に囲まれた武家屋敷地や甲府城の西側一の堀に接する道に該当する。武家屋敷地においては、柳沢吉保の公用日記『楽只堂年録』の所収の絵図に甲府城主柳沢吉保の筆頭家老柳沢権太夫保格の屋敷が描かかれている。

県土整備部都市計画課が行う甲府駅南口周辺地域修景計画（以下「修景計画」）は、「風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり～歴史・文化と縁あふれる賑わい回廊づくり～」を基本理念として、平成 24 年 3 月に策定された。これに伴い、甲府駅南口駅前広場は修景計画に基づいて交通・交流の拠点として再整備が行われることとなった。修景計画では、駅前広場・道路・公園などの公共施設の再整備が計画され、甲府駅南口駅前広場再整備（平成 25 年 3 月 29 日）に伴う工事が順次行われている。平成 27 年度も修景計画における甲府駅前広場の再整備に伴う工事で影響を受ける周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」の試掘調査及び立会調査を行った。

#### 調査地点等

調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、 m <sup>2</sup> )	掘削 深度 (約、 m)	埋蔵文 化財の 有無	措置
① 駅前シェルター 等地点	立 会 調 査	埋設管確認 のための土 木主体の試 掘調査／ シェルター 基礎工事	平成 27 年 4 月 8 日～ 6 月 2 日	今福 浅川 宮里 久保田 御山	—	1.8	なし	埋蔵文化財の保護措置は不要。 現地表面下 1.1m で江戸期の地 盤を確認した箇所は、掘削が行 われる場合は調査が必要。現地 表面下 1.8m が既掘の箇所は、 それ以下に掘削が及ぶ場合は調 査が必要。
② 駅前中央 分離帯地点	立 会 調 査	モニュメン ト土台撤去 および再舗 装工事	平成 27 年 5 月 13・14 ・16・18 日	御山 上野	—	—	あり	埋蔵文化財の保護措置は不要。 遺構は埋蔵文化財シートを設置 の上埋設保存。
③ 駅前円形植樹帯 地点	立 会 調 査	ハイパー ボールの基 礎の撤去	平成 27 年 5 月 16 日	御山	—	—	なし	埋蔵文化財の保護措置は不要。



甲府城下町遺跡 位置図

④ 駅前南口タクシー待機所地点	試掘調査	再舗装工事	平成27年7月24日	御山上野	58.3	1.2	なし	埋蔵文化財の保護措置は不要。ただし、現地表面下1.2m以下に掘削が及ぶ場合は調査が必要。
⑤ 駅前広場トイレ建設地点	試掘調査	公衆用トイレ建設工事	平成27年9月10・11日	御山上野	2	1.7	あり	記録保存による発掘調査が必要。※平成27年10・11月に調査実施。
⑥ 駅前シェルター地点	立会調査	シェルター基礎工事	平成28年3月31日	上野	—	—	なし	埋蔵文化財の保護措置は不要。

## 試掘調査

### ④駅前南口タクシー待機所地点

タクシー待機所については再舗装工事が実施されることとなり、平成27年6月2日の協議により、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護措置の必要性を確認することとなった。

調査では、計画掘削深度90cmに加えて、埋蔵文化財の保護層として30cmを確保した現地表面下1.2mまでを調査対象とした。調査対象地に東西方向に幅約1.2m×長さ約21.6m～27.0mの試掘溝を2本設定し、現地表面下1.2mまで掘削しつつ土層の状況等を確認した。

1号試掘溝では近代文化層が広く分布しており、その下層に江戸期地盤が遺存している可能性があった。2号試掘溝では、調査区東側にて、近代帰属思われる円礎が多く充填された幅1mの溝が確認され、溝内からは滲水があった。また、試掘溝中央では現地表面下1.1mの地点に水道管の埋設があり、現地表面下1.2mまでは既掘の範囲であった。西端部では、現地表面下1.75mの地点にてコンクリート塊の埋設が確認された。

調査の結果、工事掘削での最大掘削深度となる、地表面下1.2mでは埋蔵文化財は確認されなかったため、今回の工事掘削における埋蔵文化財の保護措置は不要となった。ただし、調査対象地では一部を除き、江戸期の地盤が遺存していることが想定され、現地表面下1.2m以下に掘削が及ぶ場合には再度、埋蔵文化財の調査が必要となることとした。

### ⑤駅前広場トイレ建設地点

信玄公像広場にて公衆用トイレが建設されることとなった。協議の上、工事では現地表面下2.5mまで掘削が予定されたため、試掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護措置の必要性を確認することとなった。

調査では、まず調査区内の広場の石畳（舗装版）の撤去、搬出を行った。その後、調査対象地内に南北方向に幅約1m×長さ約2mの試掘溝1本を設定し、掘削しつつ、土層の状況等を確認した。試掘溝西壁では、地表面下1.5mまで碎石が堆積していたため、壁面保護のため現地表面下1.8mの深さに留め、現地表面下1.7mではピット3基と配石1基、調査区南北に横断する土層の変化点を検出した。

調査の結果、遺物包含層と造構確認面を検出し、記録保存のための発掘調査が必要となった。この試掘結果を受け、平成27年10・11月に記録保存のための発掘調査を実施した。

①駅前シェルター地点 立会調査



調査地（調査前）



試掘抗

②駅前中央分離帯地点 立会調査



調査地（南区、北東より）



土層堆積状況（北区モニュメント土台南地点）



掘削状況（北区、西より）



土層堆積状況（調査地北区西端南壁）



井戸跡か？検出状況（南区）

③駅前円形植樹帯地点 立会調査



調査地

④駅前南口タクシー待機所地点 試掘調査



調査地遠景



2号試掘溝掘削状況



1号溝試掘溝 土層堆積状況（北壁）

⑤駅前広場トイレ建設地点 試掘調査



試掘溝の掘削状況



ピット検出状況

⑥駅前シェルター地点 立会調査



シェルター基礎坑掘削風景



土層堆積状況（基礎坑掘削 No. 5 西壁）

## 1-4 甲府城下町遺跡

### (駅前広場トイレ建設地点)

所在地 甲府市丸の内一丁目1-9  
事業名 甲府駅南口周辺地域修景計画  
駅前広場整備 トイレ建設地点  
調査期間 平成27年10月28日～11月30日  
調査面積 約30m<sup>2</sup>  
担当者 御山亮済・上野桜



甲府城下町遺跡 位置図

甲府城下町遺跡は、現在の甲府中心市街地の範囲にほぼ該当する。

甲府城築城に伴い整備された都市であり、甲府城一の堀に囲まれた

「内城」と、二の堀に囲まれた武家屋敷地にあたる「内郭」、三の堀に囲まれた最外縁部にあり商人や職人が集住した「外郭」により構成される。調査地点は武家屋敷地に該当し、甲府城柳御門に近接した場所にある。標高は約274.8mを測る。宝永元年(1704)から始まる甲府藩主柳沢吉保の時代には、吉保の側近で家老の柳沢権太夫が居を構えた場所とされている。

甲府駅南口周辺地域修景計画（以下、「修景計画」）に伴い、駅前広場の再整備において公衆用トイレを建設することとなった。平成27年9月に試掘調査を実施し、現地表面下約1.5mにおいて埋蔵文化財を確認し、トイレの建設工事に伴う掘削深度は現地表面より約2.8mに達するため、発掘調査を実施することとなった。なお、調査区西側隣接地の区域においては平成25年度に一時駐車場及び地下駐輪場の建設に伴い発掘調査を実施し、江戸時代の大型建物跡等が検出した。

発掘調査の着手に当たり、調査対象地南端部の階段を撤去、調査区確保のための土留め工を表土剥ぎに合わせて実施した。その後、人力による掘削、遺構の精査、遺構掘削等の発掘作業を行い、掘削及び調査進捗に応じて測量及び写真撮影等の記録作業を実施した。

調査の結果、調査区西側及び北側は、地表面下2.0m以上にわたり碎石が充填されており、埋蔵文化財は確認できなかった。その他調査範囲では江戸時代の生活面1面を確認し、地業跡1基、ピット4基を検出した。地業跡は南北約2m、幅約0.45mを測る。深さ約0.6mの溝状の掘り込みに粘性の強い土を充填してつき固めた構造であり、建物の地業跡と理解した。この遺構の時期を特定する遺物の出土は見られなかったが、江戸時代における土地利用と土木技術に関してひとつの知見が得られた。

出土遺物は陶磁器、土器、金属製品など、プラスチック収納箱（寸法：30×46×25cm）1箱分である。発掘調査終了後から平成28年3月まで基礎的整理作業を行った。



地業跡検出状況（北西より）



窓掘状況（南より）

## 1-5 甲府城下町遺跡（旧柳町一丁目地点）

所在地 甲府市中央二丁目 12-19  
事業名 (都)古府中環状浅原橋線改築事業  
調査期間 平成 27 年 5 月 25 日～6 月 26 日  
調査面積 33.7 m<sup>2</sup>  
担当者 御山亮済・上野桜

甲府城下町遺跡は、山梨県の中心を占める甲府盆地の北縁部に位置し、太良ヶ嶺より流れる相川が形成した扇状地の扇尖部に所在する。調査地点は、甲府城下町のうち三の堀に囲まれた「町人地」に該当する。旧街路では柳町一丁目に属し、寛永十三年（1636）には、宿場町「柳町宿」が成立する。調査地点の南には八日町通り（城東通り・旧甲州道中）が、西には柳町通り（遊亀通り）が通る交差点にあり、江戸時代以降、町人地の中心部として栄えた地域にあたる。

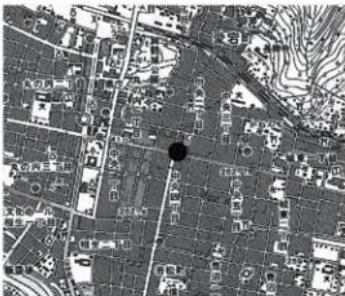
都市計画道路「古府中環状浅原橋線」にある「NTT 甲府支店西」交差点（以下、「NTT 西」交差点と呼称）は、甲府市街中心部の渋滞緩和のため、交差点改良及び電線地中化等の街路整備が実施されることとなった（都）古府中環状浅原橋線改築事業）。平成 23 年度に、「NTT 西」交差点の北西及び南西区域（エリア 1, 2）において発掘調査を実施した。北東隅地点においては、平成 26 年 6 月に試掘調査を実施し、江戸時代の生活面を確認したため、今回発掘調査を実施することになった。なお、交差点南東隅地点と北東隅地点の西側については、地下構造を持つ建物があったことが確認されており、調査対象外となった。

発掘調査は、調査区を東側と西側に分けて反転して行い、3 期の生活面を確認した。重機による表土剥ぎを実施後、3 期の生活面について、人力による掘り下げ、遺構確認、遺構掘削を行い、発見した埋蔵文化財について測量、写真撮影等の記録作業を実施した。

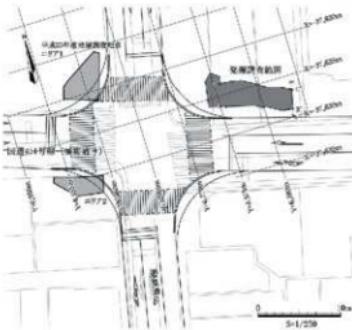
発掘調査では、中世～江戸時代初期頃の礎石建物跡とそれに付帯するカマド、土間を確認したほか、江戸時代前期の水場遺構、江戸時代中期の土坑、石列、落ち込み、江戸時代後期～末期の素掘り溝や土坑等を検出した。

検出した遺構のうち、中世～江戸時代初期頃の礎石建物跡やカマド、土間と江戸時代前期の水場遺構は、特に当該地域における町屋の構造について、これまで明らかとなっていた町人地の生活環境について、一石を投じる発見となった。また出土遺物では、滋賀県高島市付近で産出する「高島石」を用いた硯や大量のアワビの貝殻が出土するなど、活発な文物の交易が行われていたことが明らかになった。このほか、大量の木製櫛やかんざしなどの結髪具や大型の火鉢、香炉、土瓶、鍋、鉢などが出土しており、宿場町に形成された「茶屋」の雰囲気が看取できる。

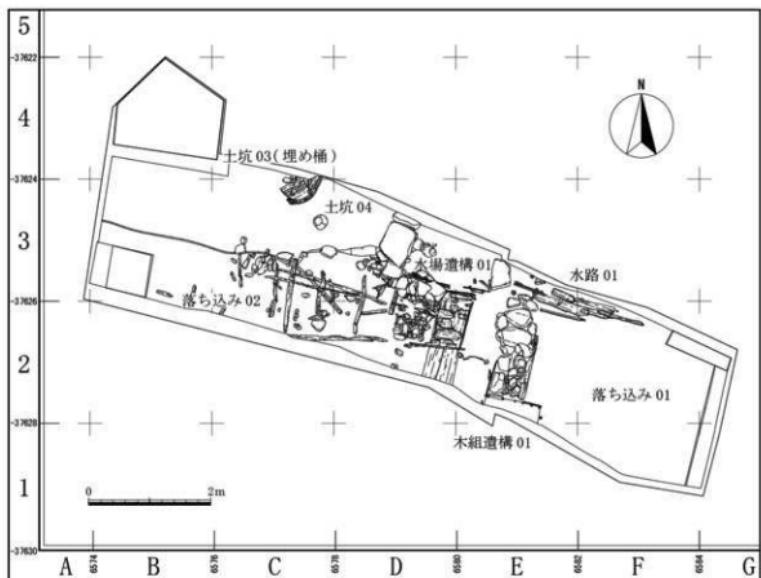
出土遺物は陶磁器、土器、木製品、金属製品、石製品、貝・骨製品等、プラスチック収納箱（寸法：30 × 46 × 25cm）23 箱分である。平成 27 年 7 月より整理作業を行い、平成 28 年 3 月に発掘調査報告書を刊行した。



甲府城下町遺跡 位置図



調査区位置図



第2期 遺構面 遺構全体図



調査区第1期遺構面（西区）の遺構検出状況（西より）



調査区第3期遺構面（西区） 遺構検出状況（東より）



水場造構 01 完掘状況（南から）



水場造構 01 区画 01 出土木製櫛

## 1-6 身洗沢遺跡 C 区

所在地 笛吹市八代町南地内  
事業名 笛吹スマートインターチェンジ建設事業  
調査期間 平成 27 年 5 月 25 日～9 月 30 日  
平成 27 年 11 月 9 日～11 月 17 日  
調査面積 5,500 m<sup>2</sup>  
担当者 柴田亮平・熊谷晋祐・塙谷風季



身洗沢遺跡 位置図

身洗沢遺跡は浅川扇状地の先端部に位置しており、周辺からは弥生時代後期～古墳時代初頭の遺跡が多く確認されている。今回の調査は笛吹スマートインターチェンジ建設事業に係わり中央道の南側の地点となる。また平成 26 年度に調査を実施した B 区の一部についても調査を行った。調査区は大きくスマートインターチェンジ本体と東西の側道部分、中央道北側の電気施設下に分けられる。調査の結果、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が確認された。その中でも、主体となるのは 3 時期に分けられ、弥生時代後期の集落跡、古墳時代中期の土器捨て場、古墳時代後期の集落跡が確認された。

弥生時代後期の集落跡が確認された範囲は、東西を谷状地形とそれに挟まれた微高地により構成され、微高地と西側の谷状地形が確認された主体となる。土層は深さ 0.3 ～ 0.5m の上層（耕作土含む）の下に深さ 0.2 ～ 0.4m の黒色シルト層があり、これが遺物包含層である。上層からは 1 ～ 3 枚の砂層が確認されており、洪水砂と推測される。遺物包含層は砂層を多く含む上層と、あまり含まない下層に分けられる。遺物包含層の下に灰黄褐色シルト層があり、これが遺構確認面である。遺構は竪穴状遺構や掘立柱建物跡や溝、ため池状遺構、土坑、ピットが確認されている。中でも微高地を横断するように配置された 3 条の溝は一連の遺構と考えられる。最も下流の溝のすぐ脇に掘立柱建物跡が検出され、この建物跡は柱間が狭く、倉庫であった可能性も考えられる。この遺構と溝を一体のものとして評価すると、溝は建物跡へ水が流れこないように配置されたと推測できる。遺構覆土や谷状地形からは、土器や木製品が多く出土した。土器は小片が多いが、中には大きく復原できる個体も確認でき、器種は甕、台付甕、壺、高杯、瓶、鉢など多岐に渡る。中には大型の壺の破片も確認され、土器は割れ口が銳利で摩耗していない。流れ込みの資料と推測され、ごく近くから流れてきたと考えられる。木製品は 8 溝の中から平鋸と又鋸が 1 点ずつ出土し、両方とも刃部が失われていたが、タイプの異なった鋸が同一遺構から出土した貴重な事例となつた。調査では確認出来なかつたが、水田で使用されたものと考えられる。これらは放射性炭素年代測定を行い、弥生時代後期～古墳時代初頭の値が出ていた。

古墳時代中期の土器捨て場は、スマートインターチェンジ本体の東側の谷から検出された。ここは非常に深い谷であり、現在でも地下水の通り道となっている。古くから水の通り道として利用されていたようであり、上層からは古代や古墳時代の土器が出土した溝が確認されている。古墳時代中期の遺物包含層は深さ 1.4m の黒色シルト層である。土器は破片となっているが、大きく復原できる資料も多く確認されている。土器は割れ口が銳利であり摩耗していない。器種は甕、台付甕、壺、杯、高杯、瓶など多岐に渡っている。

古墳時代後期の集落跡は東側の側道部分で確認された。この部分はやや高い平坦面である。遺物包含層は深さ 0.7m の黒色シルト層であるが、やや砂質である。遺構確認面は灰黄褐色シルト層である。4 基の竪穴状遺構が切り合って検出され、覆土から甕や壺などが多数出土した。また、竪穴状遺構の床面には複数の土坑、ピットが確認され、多くの土器が出土した。竪穴状遺構と土坑、ピットの遺物は明確な時期差が確認出来なかつたため、短い期間で遺構の立て替えが行われたと推測される。

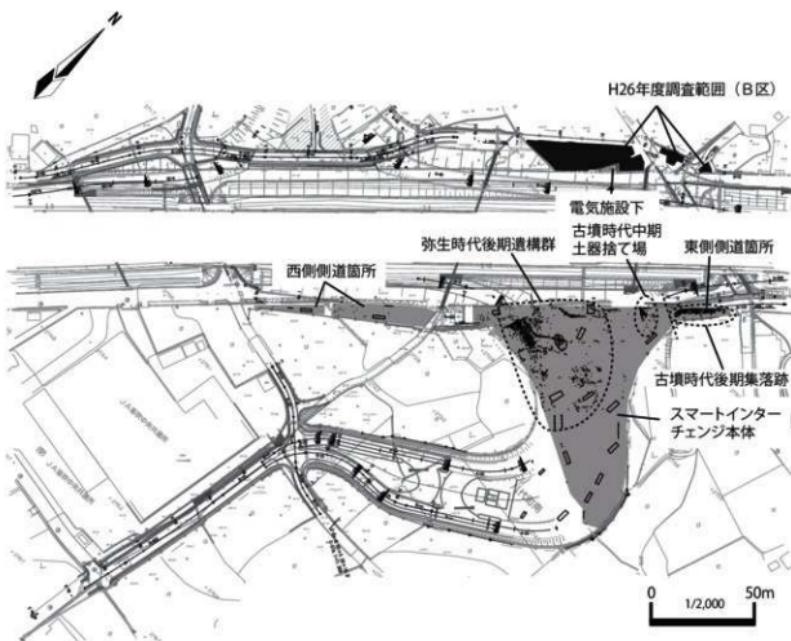
今回の調査では、縄文時代から中世まで多くの資料が出土した。これらは当地の歴史の一端を探る上で、欠くことのできない歴史資料となると考えられる。



調査区全景



平塚出土状況（B溝）



調査区全体図

## 1-7 大石遺跡

所在 地 大月市大月町花咲地内  
事 業 名 国道 20 号大月バイパス改築事業  
調査期間 平成 27 年 5 月 11 日～平成 28 年 2 月 18 日  
調査面積 約 2,300 m<sup>2</sup>  
担 当 者 田口明子・長田隆志

本遺跡は、大月市大月町花咲地内に所在する縄文・弥生時代、古代、中世の遺跡である。遺跡は大月市南部、山中湖に源を発する相模川水系のひとつである桂川の支流桜子川の右岸で、都留市との境に位置する高川山からむすび山にかけての北裾部、標高約 370m 地点に位置する。

調査区を 1 ~ 4 区まで設定した。平成 26 年度に 1 区全体約 754 m<sup>2</sup> 中の約 325 m<sup>2</sup> を調査した。平成 27 年 5 月 11 日～7 月 21 日に 1 区の続き部分、同年 7 月 22 日～9 月 27 日および 10 月 6 日～11 月 27 日に 2 区、同年 11 月 30 日～平成 28 年 1 月 29 日まで 3・4 区の調査を実施した。重機による表土剥ぎ後、人力による掘削・精査を行い、土層の堆積状況の記録や光波測量による遺構・遺物等の記録を行った。

調査の結果、確認された遺構は奈良から平安時代の竪穴住居跡 2 軒、中世以降の土坑 1 基、時期不明の焼土跡 16 基、土坑 7 基、ピット 3 基である。基本層序は、現地表下約 0.3m まで現代から近代にかけての水田跡が見られ、その約 0.1m 下から近世、現地表下約 1 ~ 1.7m 付近に奈良から平安時代、約 2m 下から縄文時代晚期～弥生時代、約 3m 付近からは縄文時代中期以前の土器が出土する層が見られる。遺構は、同一面上に広がるのではなく、奈良から平安時代、中世以降など複数の遺構確認面が存在する。調査によって出土した遺物は、縄文時代早期末・前期・中期の土器、石器をはじめ、弥生時代中期の土器、古代以降では、須恵器や土師器、鉄製品が出土している。

1 区は、平成 26 年末に行なった調査の東側部分にある。遺構は、時期不明の焼土跡が 1 基確認された。遺物は、調査区全体からまばらではあるが出土しており、北壁際部分から縄文・弥生時代の土器片が出土したほか調査区の東側から縄文時代の打製石斧が 8 本まとめて出土した。

2 区は、1 区の東側部分にある。遺構は、奈良から平安時代の竪穴住居跡 2 軒、中世以降の土坑 1 基、時期不明の焼土跡 12 基、土坑 4 基、ピット 3 基が確認された。確認された遺構は、調査区東側から焼土跡が 11 基まとまって検出されたほか、西側から住居跡や土坑、ピットなどが見つかっている。2 号竪穴住居跡はカマドの煙道が 1m 以上もあるという特徴を持っている。出土した遺物は 5,000 点を超える、全体の約 90 パーセントがこの 2 区から出土している。縄文時代の石製品や縄文・弥生時代および古代の土器、時期不明の鉄・銅製品などの遺物が確認された。

3 区は、1 区の南側で山裾際の斜面部に位置する。遺構は確認されなかったが、縄文時代の遺物が出土している。

4 区は、1 区から 2 区にかけての南側部分にある。遺構は、時期不明の焼土跡 3 基と土坑 3 基が確認された。焼土跡は 2 区で確認された焼土跡の南側部分に近い場所から検出され、土坑は調査区東側の南壁面や中央東よりの南壁際に設けた法面の段差上部等から確認された。遺物は、縄文時代の土器や石製品が出土している。

大月の遺跡分布は、桂川およびその支流の河岸段丘面上に分布が見られるが、今回の調査地点付近からは遺跡がほとんど確認されていない。しかし、調査で竪穴住居跡 2 軒を含む多数の遺構が確認された。今回の調査から得られた成果は大月市のこの地域での古代遺跡の環境・立地を考えいく上で新たな発見であったと考えられる。



大石遺跡 位置図



大石遺跡全景（西から）赤線が調査範囲



1区 調査風景



1区 遺物（打製石斧）検出状況



2区 2号整穴住居跡検出状況



4区 遺物出土状況

## 1-8 堂地遺跡5区

所在地 大月市大月町花咲地内  
事業名 国道20号大月バイパス改築事業  
調査期間 平成27年9月28日～10月9日  
調査面積 約60m<sup>2</sup>  
担当者 田口明子・長田隆志

本遺跡は大月市大月町花咲地内に所在する縄文時代の遺跡である。遺跡は、大月市の南部、都留市との境にあるむすび山の西麓、富士見台地区に位置し、東側には富士五湖の一つである山中湖を水源とする桂川が北流する。遺跡はこの桂川の河岸段丘上に位置する。

調査地点は、平成26年度の発掘調査時に道路として使用されていたため、調査ができなかった地点である。道路の付け替え工事が終了したため、平成27年度発掘調査を実施することとなった。

調査は、重機による表土剥ぎ後、人力による掘削・精査を行い、土層の堆積状況の記録や光波測量による遺物等の記録を行った。

調査の結果、調査区の北側には道路上に伴う側溝、南側には水道管が埋設され、中央部の現地表下約120cm部分から旧水道が確認され、調査区の大部分が擾乱を受けていた。遺構は確認できなかったが、調査区の西側、現地表下約50cmの黒褐色土層中から縄文時代前期から中期の土器片や黒曜石の破片が数点出土した。

今回の調査区は、擾乱により遺物包含層がほとんど残っていないかったが、平成26年度の調査も含め、遺物が調査区全体から出土していることから遺跡周辺に集落が存在していた可能性が考えられる。



堂地遺跡 位置図



遺物出土状況



調査区全景（西から）

## 1-9 谷村城

所在 地 都留市中央二丁目 1-1  
事 業 名 甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎事業  
調査期間 平成 27 年 4 月 24 日～7 月 2 日  
調査面積 約 1,111 m<sup>2</sup>  
担 当 者 網倉邦生・熊谷晋祐

谷村城は、都留市の中心市街地に広がる埋蔵文化財包蔵地であるが、今回の調査地点は甲府地方家庭裁判所都留支部の敷地である。昨年度(平成 26 年 8 月 4 日～12 月 3 日)に実施した発掘調査の結果、奈良・平安時代、中世、近世、近代の遺構・遺物が出土し、江戸時代の谷村陣屋に係わる埋蔵文化財などが見つかった。その後、庁舎工事に係わる立会調査により、新規に掘削する範囲が確認されたため、事業者と協議を行い、平成 27 年度前半で発掘調査を行うことになった。調査に先立ち実施した、平成 27 年 4 月 16 日の現地協議(東京高等裁判所、学術文化財課、埋蔵文化財センターが参加)により、調査範囲などを相互に確認した。

1 面は、地表下約 0.2 ～ 0.5m に位置し、石列遺構 1 基、敷石遺構 2 基、水路 2 基、礫集中 1 基、焼土集中 2 基が出土した。伴出した遺物から、これらの遺構は近代に比定される。2 面は、地表下約 0.4 ～ 0.7m に位置し、道路状遺構 1 基、礫集中 1 基、土坑 1 基、溝状遺構 6 基、焼土集中 3 基が出土した。伴出した遺物から、これらの遺構は近世・近代に比定される。2 面下は、地表下約 0.6m に位置し、石組遺構 1 基、焼土集中 1 基が検出された。伴出した遺物から、これらの遺構は近世に比定される。3 面は、地表下約 0.6 ～ 1.0m に位置し、石組遺構 3 基、井戸 2 基、礫集中 5 基、土坑 5 基、溝状遺構 12 基、焼土集中 1 基が検出された。伴出した遺物から、これらの遺構は中世・近世に比定される。3 面下は、地表下約 1.2 ～ 1.5m に位置し、敷石遺構 2 基、土坑 8 基、溝状遺構 1 基が検出された。伴出した遺物から、これらの遺構は近世に比定される。4 面は、地表下約 1.1 ～ 1.8m に位置し、土坑 41 基、溝状遺構 4 基が検出された。伴出した遺物から、これらの遺構は平安時代、中世、近世に比定される。

1 面で検出された 1 号敷石遺構は、南北方向に 10m、東西方向に 6.5m の長方形の外周に幅 50cm の敷石を巡らせており、地盤改良のため石を埋設したものと考えられる。

2 面で検出された 22 号溝状遺構は、不連続ながらも溝状遺構の底面に平坦面を内側に向けて対向させる様に配した石を置いている。遺構の内部からは多数の遺物が出土しており、水路として用いられたと考えられる。また、2 面から 3 面に掘り下げる過程で、元文一分判金及び文政南鏡二朱判銀が出土した。他にも陶磁器などの遺物が出土しており、2 面から 3 面の間は連続的に用いられたと考えられる。

3 面の 1 号石組の北側には、天井を半球形に組んだ石積みがあり、底面には粘土が貼られて、遺構の底からは炭化物が検出された。2 号石組は長方形の土坑の壁面に石垣を構築した遺構であり、内部には炭化物の純層が認められた。1 号石組と 2 号石組をつなぐ 30 号溝状遺構の底面にも粘土が貼られていた。28 号溝状遺構と 29 号溝状遺構は、覆土の類似性から同時期の遺構と判断されるが、それぞれの遺構より金属のインゴットが出土した。南北方向に向走する 32、34 号溝状遺構は東西方向に走る 26 号溝状遺構より古く、17 世紀の谷村城下町の段階で使用されたと考える水路であり、昨年度検出された 3 号溝状遺構の東側に位置する。

4 面の 42 号溝状遺構からは、16 世紀代の資料が出土しており、該期の一括資料と判断される。

今回の調査は、昨年度調査区の外側を対象に調査を行ったが、面積比で比較すると平成 26 年度より密に遺構が分布していることが分かった。また、江戸時代の金銀貨などの稀少遺物や遺構群、古代、中世の遺構を確認できたことは大きな成果である。検出された複数の時代の遺構は、調査地点外に広がっていることが予想されることから、周辺地域の開発に際しては試掘調査を行わなければならない。また、甲府地方家庭裁判所都留支部の敷地内の開発行為について、立会調査を含めた対応が必要である。



谷村城 位置図



第2面 遺物出土状況



第3面 1・2号石組、30号溝状遺構完掘状況



第3面 28号溝状遺構半截状況



第3面 28号溝状遺構完掘状況



谷村城3面平面図

## 1-10 三ノ側遺跡

(県立都留興譲館高等学校地点)

所在 地 都留市上谷 5 丁目 7-1 外  
事 業 名 県立都留興譲館高等学校建設事業  
調査期間 平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 2 月 5 日  
調査面積 約 1,740 m<sup>2</sup>  
(5 区 : 約 1,500 m<sup>2</sup>, 6 区約 60 m<sup>2</sup>, 7 区約 180 m<sup>2</sup>)  
担 当 者 熊谷晋祐・加々美鮎実

三ノ側遺跡は、桂川に沿って形成された谷底平野上に立地し、東西約 900m、南北約 125m に及ぶ大規模な遺跡である。既往の調査の成果から、古代甲斐国都留郡の中心的な村である「多良郷」に推定される集落遺跡である。

埋蔵文化財センターでは当該事業地に隣接する県立産業技術短期大学の整備事業に伴い、平成 23 年度に発掘調査を実施し、建物跡を含む多くの奈良・平安時代に属する遺構が確認された。その後、平成 27 年度の調査に先立ち、平成 25 年度に県立都留興譲館高等学校建設事業の第 1 期建設工事として、本報告 5 区の南側となる 1 区～4 区の調査を実施している。平成 27 年度は第 2 期建設工事として、旧校舎の解体工事后、予定される新校舎及び渡り廊下、弓道場、部室等のグラウンド付帯施設の建設に伴い発掘調査を実施した。発掘調査区は建設予定箇所に応じて 3 つに分け、5 区～7 区を設定した。

5 区では、2 つの安定した遺構面を確認した。第 1 面（黒褐色土層、一部にぶい黄褐色土層）は古代から中世・近世にかけての生活面であり、土坑 17 基、溝状遺構 17 条、連結構造遺構と命名した遺構が 2 基確認された。遺構は調査区の北東側に集中する。遺構からは、常滑産甕の破片や開元通寶などの渡来銭が出土するなど、遺構の多くは中世から近世にかけてのものと推定される。また、中世以降の遺物を包含する遺構の覆土は、後述する 7 区で確認された古代の遺構の覆土の特徴とは異なるため、区別することが可能と考えられる。第 1 面から第 2 面の間の層はスコリアの多い火山性堆積層で占められている。調査区壁面にて第 1 面より下層で弥生時代中期に比定しうる土器の破片が出土していること、また第 2 面よりも下層に縄文時代早期に流れ出した猿橋溶岩が存在していることから、第 2 面の年代は縄文時代前期から弥生時代前半期に想定できる。第 2 面の遺構は、土坑 48 基、ピット 40 基であり、ピットのうち、直線上に 3 ～ 4 基等間隔に並ぶピットを柵列状遺構として 4 列認定した。

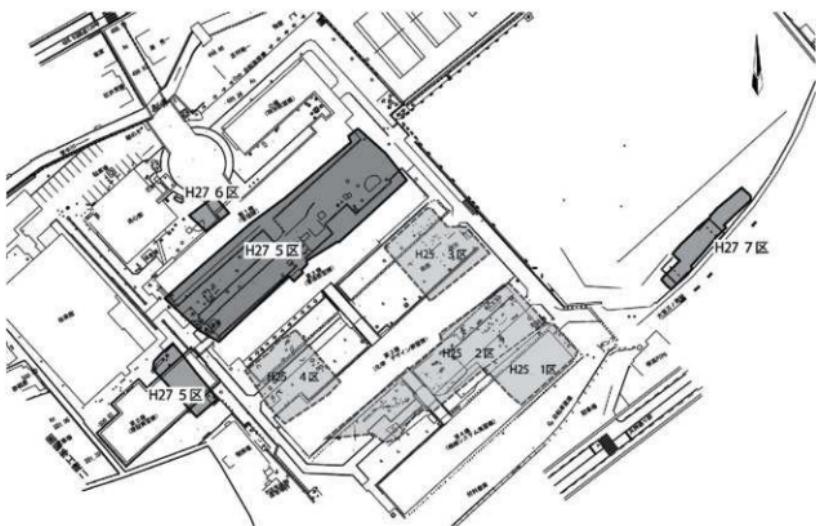
6 区では、5 区 1 面に相当する確認面で、中世以降の覆土の特徴をもつ土坑を 5 基検出した。

7 区は、5 区と堆積状況が異なったため、5 区の 1 面に相当する遺構確認面でのみ調査を実施し、土坑 8 基、ピット 12 基、掘立柱建物跡 1 棟の遺構を検出した。このうち、掘立柱建物跡は 1 間 × 2 間が確認でき、覆土の観察結果から、中世以降のものと想定する。また、調査区東側の土坑群も、調査区が狭長のため不確実ではあるが、掘立柱建物跡の可能性がある。この土坑群の覆土からは平安時代初期の土器片が出土しており、三ノ側遺跡の東端部の様相を示すものとして示唆的である。

今回の調査では、5 区・6 区における中世の遺構の広がりと、7 区における古代の遺構の広がりが確認された。三ノ側遺跡の古代における土地利用の範囲を考えるうえで重要な成果であり、過去に実施された調査成果を併せて今後も集落のあり方を検討していく必要性がある。



三ノ側遺跡 位置図



三ノ側遺跡調査地点



遺跡全景 奥がH25年度調査区



調査風景



7区 土坑群



5区2面 棚列遺構

## 2 整備事業に伴う調査

### 2-1 県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業

所在地 甲府市丸の内一丁目地内

事業名 県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業

調査機関 平成27年4月1日～平成28年3月31日

対象面積 約20,000m<sup>2</sup>

担当者 宮里学・久保田健太郎

甲府城跡は、戦国時代末期の文禄慶長期に築城された近世城郭である。明治6年の廃城以降、中央線の敷設等により城郭の規模が縮小されたが、城内には築城期の野面積みの石垣が良好に残っており、昭和43年には県指定史跡となった。県土整備部による舞鶴公園整備事業とともに、平成2年から石垣の整備を行っている。平成2年から平成16年にかけては石垣の解体と積み直しによる改修工事等を、平成17年から平成27年にかけては、積石による補強等を中心とした石垣補修工事を実施してきた。

平成27年からは、県指定史跡内全域の石垣を対象とした石垣維持管理事業を実施している。

#### (1) 目的

甲府城跡では、平成2年度から平成16年度にかけて石垣改修工事を、平成17年度から平成26年度にかけて石垣補修工事を継続してきた。その経緯を受け、平成27年度からは、引き続き公園利用者の安全を確保するとともに、約400年前の貴重な文化財である甲府城跡の石垣を保護し、活用していくことを目的とした維持管理事業を実施する。また、本事業を継続することで、文化財石垣の保護と補修に欠かすことのできない在地技術者の伝統的な石工技術を継承・育成も目的とする。

#### (2) 概要

本事業が対象とするのは甲府城跡内（県史跡指定地内）にある全ての石垣（文化財に関わる石段、水路等の遺構、屋外展示を含む）である。

甲府城跡内全域の石垣を維持管理するにあたり、業務を城内全域の石垣を対象に変位状況の観測等を行う「一次点検」と、毎年区域を限定して詳細な調査を行う「二次点検」に分ける。一次点検は、石垣の変位変動の観測や遠望目視点検等により、甲府城跡内全域の石垣の変位変動状況を把握することを目的とする。二次点検は、甲府城跡内全域の石垣を12区画程度に分け、毎年その1区画を重点的に詳細点検することを目的として実施する。足場を掛けず、梯子や高所作業車や、ロープ足場を用い、石積み技能者によるハンマーを用いた打音検査等を行い、約12ヶ月かけて甲府城跡内全域の石垣を詳細に点検するものである。本年度は、櫛荷曲輪北面石垣及び櫛荷櫓東面石垣を対象に実施した。

一次点検、二次点検、そして二次点検に伴う簡易補修作業は、文化財専門職員、石積み技能者、受託業者で協議しながら進めた。また、点検の方針や方法、点検による成果などについては、黒指定史跡甲府城跡調査検討委員会にて検討した。

平成27年度は、一次点検を8月、10月、12月、2月の4回実施し、二次点検は11月に実施した。ゲージ計測器の計測については6月のゲージ設置時に初期値を計測している。



甲府城跡 位置図



甲府城跡石垣維持管理範囲図



ゲージ設計測器置前検討  
(文化財職員、石積み技能者、受託業者)



ゲージ計測器設置例



ゲージ計測作業



目視点検



点検・施工方法の検討  
(文化財職員、石積み技能者、受託業者)



2次点検作業



簡易補修作業



調査検討委員会による現地視察

### 3 県内分布調査

#### 3-1 県営御坂団地全面的改善事業に伴う試掘調査

作業内容 笛吹市御坂町二之宮 2650  
作業期間 平成27年7月13日  
調査面積 10 m<sup>2</sup> (調査対象面積 10 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

本試掘は、県営住宅御坂団地全面的改善工事に伴い当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である後畠遺跡の隣接地に該当するため、工事による掘削予定範囲に1m×5mのトレンチを2本入れる試掘調査を実施することになった。試掘調査では重機を使用し、幅1m、長さ5mの2本のトレンチを掘り下げ土層観察を行った。東側のAトレンチでは、150cmの深さまで掘り下げたものの、人頭大あるいはそれ以上の大きな礫や巨大なコンクリート片が多量に埋設されており、自然の土壤がかなり荒らされている状態で遺物も皆無であった。

西側のBトレンチでは土壤の状態は良好であった。地表下60cmまでの粘土質黒色土層までは人為的なものと考えられ、以下地表下60cmから150cmまで良好な自然堆積土と判断できた。しかし土器の破片あるいは石器の破片などは全く確認できなかった。

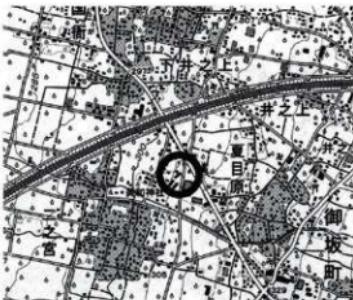
二本のトレンチ調査でも遺物・遺構は全く発見できなかった。よって、この御坂団地3号棟については今後計画通り工事を進めても差し支えないと判断した。

#### 3-2 国道358号(甲府市右左口)拡幅工事に伴う試掘調査

作業内容 甲府市右左口町 1111-3 外  
作業期間 平成27年7月27日～8月5日  
調査面積 30 m<sup>2</sup> (調査対象面積 400 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

国道358号の甲府市右左口地区は、精進湖方面への登坂車線の増設が計画されている。この工事範囲に周知の埋蔵文化財包蔵地「流戸原遺跡」が存在するため、拡幅に伴う掘削範囲を試掘調査することになった。なお調査対象地は国道とレジャー施設「右左口の里」の駐車場に挟まれた細長い形状をしており、重機も使用できず、また発掘で排出された土砂はそのまま現地に積めない状況にあった。そのため人力での掘り下げを行うこととし、排出土砂は土嚢袋に詰め、トレンチ調査が一箇所終わる度に土嚢袋ごとトレンチに埋め戻す方法をとった。掘り下げたトレンチは断面清掃後に土層観察を行った。試掘調査では南側からA～Fの6箇所のトレンチ(幅120cm×長さ250cm)を設定した。

調査では平安時代の土器2片以外に遺物・遺構は全く発見できなかった。よって、国道358号の甲府市右左口地区での拡幅工事は今後計画通り工事を進めても差し支えないと判断した。



試掘調査 位置図



試掘調査 位置図

### 3-3 中部横断自動車道（南部町矢島地区） 建設工事に伴う試掘調査

作業内容 南巨摩郡南部町福士字矢島 5361-3・4

作業期間 平成 27 年 8 月 11 日

調査面積 30 m<sup>2</sup> (調査対象面積 800 m<sup>2</sup>)

担当者 米田明訓・加々美鮎実

本調査は、中部横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査である。今回は買収済みの 2 箇が調査対象であった。調査では重機を使用し、幅 1m、長さ 15m の 2 本のトレーナーを掘り下げ、作業員による清掃作業後に土層観察を行った。南側の A トレーナーも北側の B トレーナーと共に 200cm の深さまで掘り下げたものの、厚さ 10cm ほどの水田に利用されていた薄い表土の下は礫層となっており、この礫層は地表から深さ 170cm まで続き、以下は砂礫層となり出水が始まった。二本のトレーナーの断面からは構造の存在は確認できなかった。また土器の破片あるいは石器の破片などの出土も全く確認できなかった。調査終了後に土を埋め戻し、全ての作業を完了した。

二本のトレーナー調査でも遺物・構造は全く発見できなかった。よって、矢島地区については今後計画通り工事を進めても差し支えないと判断した。



試掘調査 位置図

### 3-4 国道 20 号大月バイパス改築事業に伴う 試掘調査

作業内容 大月市花咲町地内

作業期間 平成 27 年 11 月 11 日

調査面積 120 m<sup>2</sup> (調査対象面積 1,780 m<sup>2</sup>)

担当者 米田明訓・塙谷風季

本試掘は、大月バイパス建設に伴い予定地に周知の埋蔵文化財包蔵地（花咲用水閥連遺跡）が存在し、構造等の有無を確認するために実施することになった。なお、当初は工事用道路南側も試掘調査対象範囲にしていたが、隣接する工事用道路部分の試掘では何も発見されなかった上、やや急峻な斜面であるため、加えて脆弱な構造の水路を越えないと重機が侵入できないこともあり、最終的に試掘対象地域から除外した。

試掘調査では重機を使用したが、JR 中央線下の小さなトンネルしか現地への進入路が無く、小型の重機のみの利用となった。現地は南北の広い平坦な二段の畑地となっており、それぞれの段にトレーナーを一本 (2m × 30m) ずつ設置した。重機の性能上、掘削深度は 220cm が限度であったが、二本のトレーナーとも深さ 155cm ~ 160cm で地山の小石混じりの黄褐色土層に到達した。地山より上の土は、所々しまりが無い軟弱な土層があり、南側の山の崩落か、あるいは畑を造成するための人為的な盛り土と考えられた。遺構遺物は全く検出されなかった。当該箇所には遺跡の存在は確認できなかったため、バイパスの工事は予定どおり開始しても支障なしと判断した。



試掘調査 位置図

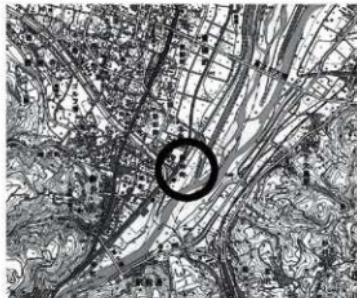
### 3-5 富士川水辺環境整備事業に伴う試掘調査

作業内容 南巨摩郡富士川町鷺沢地先  
作業期間 平成27年10月26日  
調査面積 90m<sup>2</sup>（調査対象面積17,000m<sup>2</sup>）  
担当者 米田明訓・塙谷風季

本試掘は、富士川河川敷を平坦にする造成工事に伴う遺跡確認調査である。高い部分を削平し、低い部分に盛土する。掘削深度は最大で390cmで、造成後は地元富士川町が総合運動場として利用する予定である。試掘調査では2台の重機を使用し、幅2m（底面）、長さ15mの3本のトレンチ（A～C、間隔は100m）を掘り下げ土層

観察を行った。一番南側をAトレンチ、北へ向かって順にBトレンチ、Cトレンチとした。Aトレンチは深さ200cmまで掘り下げた。掘削予定範囲は全て砂礫層であり、遺構も遺物も皆無であった。Bトレンチは深さ370cmまで掘り下げた。掘削予定範囲は全て小石混じりの砂層で、遺構も遺物は皆無であった。Cトレンチは地表下120cmまでは純砂層であったが、以下は、しまりのない砂礫層で、近現代の道路の可能性がある。300cmまで掘り下げたところで若干水が浸みてきたため掘削を終了した。出土遺物は無かった。

3本のトレンチ調査により工事による掘削予定深度まで発掘したものの堤防遺跡等の痕跡は全く確認できず、遺物も皆無であった。よって、この環境整備事業は計画通り工事を進めても差し支えないと判断した。



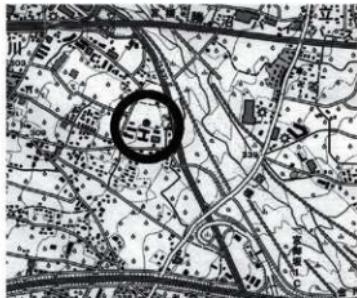
試掘調査 位置図

### 3-6 県立桃花台学園グラウンド排水改修

#### 工事等に伴う試掘調査

作業内容 笛吹市石和町中川1400  
作業期間 平成27年11月10日  
調査面積 25m<sup>2</sup>（調査対象面積125m<sup>2</sup>）  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

県立高等支援学校桃花台学園では、グラウンド部分に浸透マスとU字溝の設置、加えて学園外の農園へグラウンドから直接通行できるようにスロープを設置することになった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地（狐原遺跡）であることから、掘削が予定されている範囲の試掘調査を実施することになった。試掘調査では、まず浸透マス部分（5m×5m）の範囲の掘り下げを開始した。グラウンド部分は地表から20cmの厚さで砂層が敷かれ、以下は人頭大の礫を多量に含んだ褐色土層となっていた。90cmの深さまで掘り下げたところで南北に走る未知の水道管（φ4cm）にあたり、ジョイント部分が抜け出水が始まってしまった。学校が水道業者を手配し、当方は試掘作業を中断し学術文化財課に状況を報告して指示を仰ぐこととした。浸透マス以外の試掘箇所にも今回の水道管に加え別の水道管の存在が予想されるため、担当としては試掘の続行は不可能と判断した。同じく学術文化財課からも今回の試掘は中止とし、工事を行う時に立会調査で対応するよう指示があった。修理後に重機で土を埋め戻し調査終了とした。



試掘調査 位置図

### 3-7 曽根丘陵公園防災公園整備工事（トイレ進入路建設）に伴う立会調査

作業内容 甲府市下曽根町地内

作業期間 平成27年4月16日

調査面積 34m<sup>2</sup>（調査対象面積34m<sup>2</sup>）

担当者 米田明訓・加々美鮎実

甲府盆地南端に位置する都市公園「甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園」は、国指定史跡の銚子塚古墳や大丸山古墳をはじめ、多くの遺跡が存在する歴史公園である。この公園は、広大な芝生広場を有し、ドクターハーリあるいは災害発生時の自衛隊ヘリコプターの着陸地に

指定されており、県の防災拠点としての役割も担っている。今回は、歩道舗装工事が実施される公園内日本庭園周辺が周知の埋蔵文化財包蔵地「岩清水遺跡」や「かんかん塚（茶塚）」に近接することから、遺構・遺物の検出される可能性があるため、工事立会を実施することとした。立会調査では重機による表土はぎを行ながら土層断面や周囲の状況を観察した。対象地は、近隣に以前発掘調査された古墳や住居跡等に関連する遺構の存在も予想された。しかし調査の結果、工事による掘削深度が最大で23cmであり、遺構・遺物の検出は皆無であった。立会調査の範囲では埋蔵文化財の包蔵地と近接してはいるが遺構・遺物を示すデータは認められず、当該工事の施工に当たり、これ以上の埋蔵文化財保護の措置は不要で、計画どおりの施工に支障はない判断した。



立会調査 位置図

### 3-8 曽根丘陵公園防災公園整備工事（芝生広場周回道路）に伴う立会調査

作業内容 甲府市下曽根町地内

作業期間 平成27年4月23日～24日

調査面積 500m<sup>2</sup>（調査対象面積500m<sup>2</sup>）

担当者 米田明訓・加々美鮎実

歩道舗装工事が実施される曾根丘陵公園日本庭園が周知の埋蔵文化財包蔵地「岩清水遺跡」や「かんかん塚（茶塚）」に近接することから、遺構・遺物の検出される可能性があり、工事立会を実施することとした。

立会調査では重機による表土はぎを行なながら土層断面や周囲の状況を観察した。その結果、掘削深度が最大で23cmの本工事の範囲では、小石混じりの茶褐色粘質土の堆積土のみが観察され、遺構・遺物の検出は皆無であった。立会調査の範囲では埋蔵文化財の包蔵地と近接してはいるが遺構・遺物を示すデータは認められず、計画どおりの工事施工に支障はない判断した。



立会調査 位置図

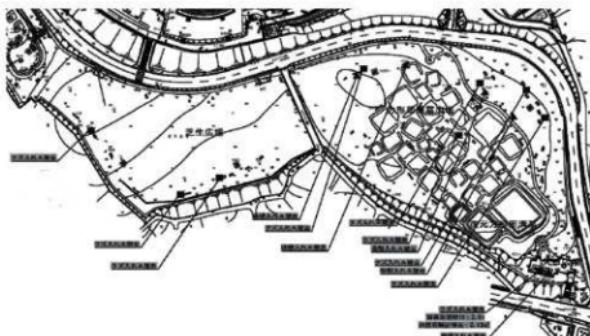
### 3-9 曽根丘陵公園防災公園整備工事（ゴミ箱等撤去）に伴う立会調査

作業内容 甲府市下向山町地内  
作業期間 平成27年7月6日  
調査面積 10m<sup>2</sup>（調査対象面積10m<sup>2</sup>）  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

曾根丘陵公園内の方形周溝墓広場およびその西の芝生広場に設置されているゴミ箱9箇所と吸い殻入れ5箇所の撤去作業を実施するにあたり、埋蔵文化財の存在の有無を確認するために立ち合い調査を実施することになった。今回の作業では、盛り土の存在以前に、ゴミ箱と吸い殻入れが、その基礎周囲の土にほとんど影響を与えることなく垂直に引き抜かれることが判明した。そのため、今回は5個所の引き抜きに立ち会ったが、他の個所も工事は予定どおり進めて問題ないと判断した。



立会調査 位置図



立会個所位置図

### 3-10 曽根丘陵公園防災公園整備工事（ゴミ箱等撤去）に伴う立会調査

作業内容 甲府市下曾根町地内  
作業期間 平成27年7月14日  
調査面積 10m<sup>2</sup>（調査対象面積10m<sup>2</sup>）  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

曾根丘陵公園内の日本庭園および、かんかん塚南西に設置されている吸い殻入れ2箇所とクズ入れ3箇所の撤去作業を実施するにあたり、埋蔵文化財の存在の有無を確認するために立ち合い調査を実施することになった。なお、撤去は人力と重機を併用しながら行い、設置状況と土層の状況を観察した。立合の結果、この範囲の中では構造・遺物とともに確認出来なかった。また、前回実施した方形周溝墓周辺の設置物の撤去同様、今回実施した箇所についても、設置物の基礎がほぼ垂直に引き抜かれたため、周辺の土への影響はほとんど無かった。



立会調査 位置図

### 3-1-1 曽根丘陵公園防災公園整備工事（考古博物館までの進入路）に伴う立会調査

作業内容 甲府市下曽根町地内  
作業期間 平成27年7月15日  
調査面積 380m<sup>2</sup>（調査対象面積380m<sup>2</sup>）  
担当者 今福利恵・米田明訓・加々美鮎実

曽根丘陵公園内の園路舗装作業（第1駐車場から考古博物館の入口付近まで）の実施にあたり、当該地が考古博物館構内古墳等に近接するため、埋蔵文化財の存在の有無を確認するために立ち合い調査を実施することになった。

工事は既存のアスファルトを剥いだ後に軟弱な地盤を除去し、砕石を入れて舗装を行うというものであった。掘削・剥ぎ取り深度は最大で約30cmであり、過去の工事での掘削深度に満たないものであった。今回の掘削範囲では、遺構・遺物とも確認できなかつたため、計画通りに工事を進めて支障なしと判断した。



立会調査 位置図



剥ぎ取り作業



剥ぎ取り断面

### 3-1-2 県立谷村工業高校内立木抜根作業に 伴う立会調査

作業内容 都留市上谷5-7-1外  
作業期間 平成27年4月28日  
調査面積 6m<sup>2</sup>（調査対象面積6m<sup>2</sup>）  
担当者 柴田亮平・加々美鮎実

県立谷村工業高校内で校舎東側の6箇所の切り株について抜根作業を実施することになり、抜根実施箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡の中に含まれるため、工事立会を実施することになった。立会調査は、重機を用いて校舎東側の4箇所（A～D地点）

の切り株の抜根を行い、抜根箇所の土層及び周囲の状況の観察を行った。（※学術文化財課より連絡を受けた際は、6箇所という話であったが、現地にて確認したところ抜根は4箇所のみで事足りるということであった）抜根箇所の深度はそれぞれA: 約0.7m, B: 約0.4m, C: 約1.0m, D: 約0.9mである。いずれも砂礫と岩片が混じて堆積している状況で、A地点については現地表下0.7mでモルタル片、D地点については、現地表下0.9mで水道管が埋設されていることが確認され、以前にも掘削を受けている様子が窺えた。結果として、遺構・遺物ともに全く確認出来なかつたことから、埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。



立会調査 位置図

### 3-13 県立谷村工業高校第二棟撤去に伴う立会調査

作業内容 都留市上谷 5-7-1 外  
作業期間 平成 27 年 6 月 1 日  
調査面積 100 m<sup>2</sup> (調査対象面積 1,000 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

谷村工業高校第二棟の基礎撤去工事に伴い立会調査を行うことになった。第二棟の上部建物は既に撤去されており、地表下には約 70 箇所に基底部がラフスコ状の独立フーチング基礎が設置されていた。調査では重機を使用し、地下構造物を観察するため、1 箇所のフーチング基礎の周囲 (10m × 10m) の掘削とフーチング基礎の撤去および土層の観察を行った。この基礎の状況を観察すれば、建物範囲全体の状況が把握できるものと判断した。

土層の観察からは、この建造物の基礎を設置した際に、面的に相当広範囲に深さ 3m まで掘削を行っていたことが判明した。今回 1 箇所のみ撤去したフーチング基礎も、その基底部がラフスコ状に拡がった形状で巨大 (320cm × 230cm) なものである。この基礎と同等規模のフーチング基礎が建造物の範囲全域 70 箇所にわたって設置されており、遺構の存在が予想される範囲は、この基礎を設置する段階ではほぼ壊滅的に破壊されたと判断できる。今回の調査の結果、この第二棟の基礎撤去作業に関しては、今後とくに埋蔵文化財センター職員の立会は不要であると判断した。ただし今後、他の建造物の基礎撤去時への対応については別途協議していくものとする。



立会調査 位置図

### 3-14 県立谷村工業高校第一棟撤去及び立木抜根作業に伴う立会調査

作業内容 都留市上谷 5-7-1 外  
作業期間 平成 27 年 7 月 8 日  
調査面積 33 m<sup>2</sup> (調査対象面積 440 m<sup>2</sup>)  
担当者 熊谷晋祐・加々美鯨実

谷村工業高校第一棟東側の基礎撤去を実施するにあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「三ノ側遺跡」に含まれるため立会調査を実施することとなった。同時に立木の抜根作業にも立ち会った。重機により第一棟東側の基礎の撤去を実施した。基礎の中で最も西側の一列の解体で土層及び周囲の状況の確認を行った。調査の結果、基礎単体の規模は第二棟のものより小規模であるが、それぞれが連結しているという状況から基礎設置時には面的に掘削を行っており、厚く攪乱を受けているものと判断された。今回確認を行った一列より東側についても同様の状況が想定され、遺構・遺物とともに全く確認出来ないことから、計画通りに基礎撤去作業を進めても差し支えないと判断した。

第一棟東側の立木 2 本を重機で抜根し土層の確認を行った。抜根の掘削深度は浅く、南側は現地表から約 40 cm、北側が現地表から約 50 cm であった。また、抜根跡より下の地点からは電気の配管が確認され、以前に掘削を受けている様子が窺えた。遺構・遺物が全く確認出来ないことからも埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。



立会調査 位置図

### 3-15 県立谷村工業高校内立木抜根作業に伴う立会調査

作業内容 都留市上谷 5-7-1 外  
作業期間 平成 27 年 7 月 15 日  
調査面積 5 m<sup>2</sup> (調査対象面積 5 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯉実

県立谷村工業高校において立木の抜根作業を実施する旨を学術文化財課より連絡を受けた。抜根実施箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡の範囲に含まれるため、工事立会を実施することとなった。

立会調査は、重機を用いて校舎第 5 棟と体育館の間に位置する 5 箇所 (A ~ E 地点) の立木の抜根を行い、抜根箇所の土層及び周囲の状況の観察を行った。

観察の結果、抜根を実施した A ~ E 地点のいずれも砂礫混じりの黒褐色土の堆積がみられたが、遺物等の確認は出来なかった。また、D 地点、E 地点からはそれぞれ、ビニール、コンクリート片が検出され、以前に掘削を受けた様子が窺えた。さらに、対象となった立木はいずれも直径 20cm 程度と細く、抜根による地盤への影響も少なかった。結果として、遺構・遺物ともに全く確認出来なかつたことから、埋蔵文化財の保護措置は不要と判断した。

### 3-16 県立谷村工業高校第五棟基礎撤去及び立木抜根作業に伴う立会調査

作業内容 都留市上谷 5-7-1 外  
作業期間 平成 27 年 7 月 29 日 ~ 30 日  
調査面積 125 m<sup>2</sup> (調査対象面積 500 m<sup>2</sup>)  
担当者 網倉邦生

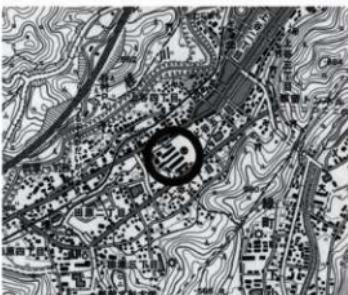
谷村工業高校第五棟の基礎撤去を実施するにあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「三ノ側遺跡」に含まれるため立会調査を実施することとなった。同時に立木の抜根作業にも立ち会った。

基礎撤去工事は、西側から東側に向かって作業が進行した。基礎は長方形を呈し、平面形で長辺 320cm、短辺 230cm を測る。基礎の下には、玉石の上に捨てコンクリートが造成されていた。土層観察を行った結果、把握された地表下 95cm の暗褐色土層と地表下 110cm の黒褐色土層は、遺構の構成土壌となり得る土層と判断される。

抜根地点 1 は 1.5m × 1.5m の範囲を地表下 90cm まで、地点 2 は 3m × 1.7m の範囲を地表下 1.3m まで掘削した。地点 1・2 では、それぞれ第五棟南壁でも検出された黄褐色土層、暗褐色土層が検出されており、地点 1 の暗褐色土層の上位からは、黒色粒子が確認された。これらの土層は、本調査における縦層になると考えられる。第五棟は、基礎敷設に伴い大幅に地山を掘削しており、第五棟の範囲内においては、埋蔵文化財は検出されない。ただし、基礎造成段階における余掘り部分の外側には、地山層が残されている。また、断面観察により、複数の遺構面が検出される可能性を有している。この範囲は本調査で対応すべきものである。



立会調査 位置図



立会調査 位置図

### 3-17 県立興譲館高校設置物撤去に伴う立会調査

作業内容 都留市上谷 5-7-1 外  
作業期間 平成 27 年 11 月 18 日  
調査面積 3 m<sup>2</sup> (調査対象面積 3 m<sup>2</sup>)  
担当者 熊谷晋祐・加々美鯉実

都留興譲館高等学校建設に伴う三ノ側遺跡の発掘調査を実施するにあたり、調査区域のグラウンド南東部に体育器具があるため、発掘調査着手前に器具の撤去を実施することになり、それに伴い工事立会を行った。

器具の撤去は重機にて西側から実施し、撤去跡の土層及び周囲の状況の確認を行った。調査の結果、体育器具の支柱は現地表下約 80cm の地点まで埋設されていた。撤去跡の土層観察を行ったところ、体育器具の支柱が埋設されていた GL~80cm の深さまでは削れた砂が落ち込み、確認することが出来なかつたが、目視可能な GL~40cm までの範囲については、砂を主体とした埋め土が堆積しているとみられ、ガラス片等の混入が認められた。また、体育器具は重機にてほぼ垂直に引き抜かれたため、撤去に伴う周囲の地山への影響はみられなかつた。

今回の立会によって確認した箇所は非常に限定的である。古代の遺構面は体育器具の支柱が埋設されていた地点よりもさらに下層であり、今後の本調査にて遺構・遺物が発見されることが想定される。



立会調査 位置図

### 3-18 甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業（電柱移設）に伴う立会調査

作業内容 都留市中央二丁目 1-1  
作業期間 平成 27 年 7 月 1 日・3 日  
調査面積 4 m<sup>2</sup> (調査対象面積 4 m<sup>2</sup>)  
担当者 綱倉邦生・熊谷晋祐

立会調査は、4 カ所の施工予定地で実施した。施工予定地は敷地東側の街路に接しており、高さ 1m 未満の石垣が残っている。いずれの地点も調査面積は 1m × 1m 以内である。地点 1・2 は、現存の石垣を解体しながら人力により掘削した。掘削の結果、石垣の底面は現行の道路と同じ高さで、両地点とも近代以降とみられる陶磁器や瓦などの遺物を石垣内部に包含するため、石垣の構築時期は近代以降と考えられる。地点 3 は、既存の電柱に伴うアース線の撤去工事であり、地表下 75cm まで人力で掘削した。地表下 30 ~ 40cm の深さで焼土層および炭化物層を確認したが、近代以降のものと考えられる。地点 4 は、既存の引っ越し線撤去に伴う工事であり、7 月 1 日の立会調査では地表下 40cm まで掘削し、3 日の立会調査では同地点を地表下 60cm まで掘削した。3 日の調査において平瓦が出土した。今回の立会調査では陶磁器や瓦等が出土したが、主に石垣の内部から出土しており、石垣構築時の埋め土に含まれていたものと考えられる。また、立会調査実施範囲内には、遺構が確認されなかつたことから、当該の工事施工に当たつては特段の埋蔵文化財の保護は要しないと判断される。



立会調査 位置図

### 3-19 甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業（地山掘削等）に伴う立会調査

作業内容 都留市中央二丁目 1-1

作業期間 平成 27 年 7 月 13 日

調査面積 8 m<sup>2</sup> (調査対象面積 8 m<sup>2</sup>)

担当者 網倉邦生・熊谷晋祐

甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業に係る、仮囲い単管パイプの打ち直しと地山掘削工事に伴う立会調査である。場所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である谷村城の範囲内に位置している。工事範囲は敷地内から市道の間際までで、本調査で調査ができなかつ

た部分を、重機及び人力により掘削した。調査の結果、新たに瓦溜まり 1 基と、焼土集中 1 基を確認した。瓦溜まり付近では、本調査時に瓦が散見されていたが、面的に分布していなかった。今回、市道に接する壁面の断面観察をした結果、瓦は厚く堆積し、東側（市道側）に向かって集中するものと考えられる。焼土集中は、平面的な造構プランを確認することは困難であったが、断面により観察できたため、検出状況を撮影した。

結論として谷村区裁判所に伴う埋蔵文化財は、少なくともその地境まで及ぶものであり、付近の開発行為などには細心の注意を払う必要がある。谷村城は、造構が地中深くに良好な形で遺存していることが分かり、範囲内における開発行為等にあたっては、今後も埋蔵文化財の調査対応を要する。



立会調査 位置図

### 3-20 甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業（設備配管工事）に伴う立会調査

作業内容 都留市中央二丁目 1-1

作業期間 平成 27 年 10 月 19 日～21 日

調査面積 130 m<sup>2</sup> (調査対象面積 130 m<sup>2</sup>)

担当者 網倉邦生・塙谷風季

甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業に伴い、裁判所庁舎周囲の設備配管工事を実施することとなったため、立会調査を行つた。工事の内容は、電気配管のためのハンドホール埋設（6 基）と管路及び、給水管の敷設に伴う管路の掘削工事である。



立会調査 位置図

設備配管工事は、庁舎の北西側に 4 基のハンドホールを埋設し、高圧と弱電の管をつなぐため、ハンドホールの間を掘削した。庁舎の西側には、外灯に電線を引き込むためのハンドホールの埋設と管路の掘削も行われた。また、庁舎北西側の取水部から庁舎周囲の給水管へ連結させるため、地山を掘削した。

ハンドホール 1～3 と 4・5 をつなぐ管路においては、本調査第 2 面に比定される位置から焼土集中が検出され、第 2～3 面の構成土壤から近世の遺物が出土した。ハンドホール 6 は、本調査第 1～2 面の構成土壤とともに、瓦片が出土した。給水管の掘削工事において、地表下 120cm まで掘削したところ、本調査第 1～4 面の構成土壤が確認され、底面は炭化物粒子が広がっていた。掘削過程で石製の鉢型や近世の陶器片が出土している。今後引き続き予定される外構工事においても、十分な事前協議と必要な保護措置が必要と考えられる。

### 3-2-1 旧甲府地方法務局埋設物掘削調査に伴う立会調査

作業内容 甲府市北口 1-150 外  
作業期間 平成 27 年 4 月 27 日  
調査面積 5 m<sup>2</sup> (調査対象面積 1,543 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

財務省が管理する旧甲府地方法務局（周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」に含まれる）においてボーリング調査を実施したところ、建物北側の駐車場にて 4 箇所 (G-1、外-11、外-12、外-13)、建物西側の草地にて 2 箇所 (B-9、B-10) 地下埋設物に当たつたため埋設物が何かを調べるために掘削工事で立会調査を実施することとなった。

調査は G-4、外-12、外-13 は重機を、B-9、B-10 は人力で掘削を行い、土層堆積の確認を行った。掘削規模はいずれも 1m × 1m で、外-11 は大きな切り株があり掘削を実施しなかった。結果として、掘削を行った 5 箇所について、いずれも擾乱を大きく受けしており、遺構・遺物ともに全く確認できなかった。しかし今回掘削を実施した深度より深い範囲、また今回の掘削地点以外の範囲については埋蔵文化財が存在する可能性があるため、今後事業等が行われる場合は別途協議が必要である。



立会調査 位置図

### 3-2-2 財務省所有地における埋設物掘削調査に伴う立会調査

作業内容 甲府市緑が丘 1-6-11  
作業期間 平成 27 年 5 月 21 日  
調査面積 24 m<sup>2</sup> (調査対象面積 988 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

財務省所有の土地（周知の埋蔵文化財包蔵地「緑が丘一丁目遺跡」に含まれている）について、地下に埋設されている廃棄物調査の掘削作業を伴うため、立会調査を行うこととなった。



立会調査 位置図

立会調査では重機を使用し、8 箇所 (A～H トレンチと命名) の掘削と土層の観察を行った。掘削の規模は 1m × 1m が 4 箇所、1m × 5m が 4 箇所であり、最大掘削深度は約 1.5m であった。B トレンチの廃棄物が混じる土の中から縄文時代前期・古墳時代の土器が採集された。この廃棄物が混じる土が何処の場所のものかは確定できないが、現在更地である当該地には、過去数軒の家屋が建っていたことが記録にあり、その家屋等を取り壊して土地を掘削して埋納した可能性が高い。今回の調査では、所々に深さ 50～60cm で地山が残っていることや出土遺物もあるうえ、当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「緑が丘一丁目遺跡」の範囲内のため、今後当該地で掘削を伴う事業が実施される場合は詳細な試掘調査が必要であると認められる。



B トレンチ出土遺物

### 3-23 県立中央病院新駐車場建整備工事に伴う立会調査

作業内容 甲府市富士見一丁目地内  
作業期間 平成27年4月22日  
調査面積 7m<sup>2</sup>（調査対象面積3,800m<sup>2</sup>）  
担当者 米田明訓・加々美鮎実

県立中央病院駐車場整備工事に伴い、事業対象地（3,800m<sup>2</sup>）が周知の埋蔵文化財包蔵地である富士見一丁目遺跡に近接するため立会調査を実施することとなった。工事は、舗装工事と外灯設置工事からなり、掘削が最も深く及ぶ外灯設置工事の立会を先行して実施した。調査では重機2台を使用し、外灯設置箇所にあたるA～Gの7箇所の掘削と土層の観察を行った。掘削の規模はいずれも約1m×1mで最大掘削深度は約1.2mである。

調査の結果、現地表下約40cm以下で河川氾濫による砂礫の堆積が認められた。砂礫層の下層では現地表下約1mで暗黄褐色の粘質土を確認したが、富士見一丁目遺跡で確認された畝等の明確な遺構は確認出来なかつた。A～G地点のいずれも遺構・遺物ともに確認できなかつたため、今回立会を実施した7箇所の他、外灯設置を予定する場所が1箇所残っているが、全面の舗装工事とともに計画通り工事を進めても差し支えないと判断した。



立会調査 位置図

### 3-24 リニア見学センターバス待機所トイレ設置工事に伴う立会調査

作業内容 都留市小形山字沖大原1外  
作業期間 平成27年8月3日  
調査面積 5m<sup>2</sup>（調査対象面積5m<sup>2</sup>）  
担当者 石神孝子

都留市に所在するリニア実験線見学センターにおいて、大型バス待機所内にトイレを設置するため地面を掘削する工事が実施されることになった。当該地は埋蔵文化財包蔵地である沖大原遺跡の東側に近接し、また以前リニア実験線建設工事に伴い発掘調査を行った中構遺跡は、直線距離にして約300mの範囲に所在することから、工事立会を実施することとした。

重機でトイレ設置場所の掘削を実施した。掘削範囲は便槽を埋める南北約1.5m、東西約2.5mの範囲であり、深さ約1.0mまでの掘削である。掘削終了後、土層の堆積状況及び周囲の状況確認を行った。

調査の結果、現地表下約0.4mは礫が混在する茶褐色土、約0.4m～約0.8mは粒子の粗い明黄茶褐色土、約0.8mより下層は暗茶褐色土の堆積が見られた。また周囲の観察から埋蔵文化財包蔵地である沖大原遺跡は、今回の調査地より一段高い台地上に立地しており、当該地は沖大原遺跡の端部もしくは埋蔵文化財包蔵地外に立地していると判断される。今回の調査では遺物・遺構ともに確認できず工事を進めても差し支えないと判断した。



立会調査 位置図

### 3-25 火打石急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査

作業内容 南巨摩郡南部町福士火打石  
作業期間 平成27年9月7日  
調査面積 120 m<sup>2</sup> (調査対象面積300 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

南部町福士火打石における急傾斜地崩落対策事業であるが、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地(火打石遺跡:散布地)に隣接するため、現地で工事用進入路の設置にあたり立会調査を行った。なお、擁壁の本体工事箇所は急峻な斜面そのものであり、掘削箇所も斜面であるため立会は不要と判断した。業者側が進入路設置にあたり、掘削深度を深さ20cm未満とし、地表に大型車両通行用に鉄板を敷く方法を選択したので、実質的に埋蔵物への影響はほとんどないものと判断し、全体(長さ約100m)のうち長さ40m(幅3m)の工事範囲だけ作業に立ち合った。予想通り埋蔵物には影響のない作業と判断し、業者には工事を慎重に続行して構わないことを告げた。



立会調査 位置図

### 3-26 一般国道411号電線共同溝工事 (第1工区)に伴う立会調査

作業内容 甲州市勝沼町等々力地内  
作業期間 平成27年12月21日  
調査面積 40 m<sup>2</sup> (調査対象面積150 m<sup>2</sup>)  
担当者 米田明訓・加々美鯨実

甲州市勝沼町等々力地内的一般国道411号において電線共同溝工事(継続事業)を実施しているが、一部が周知の埋蔵文化財包蔵地(立正寺旧境内等)に近接している。過去、最も周知の埋蔵文化財包蔵地に近い部分を試掘しているが、遺構等は発見されていない。立会調査では重機を使用し、1工区南半分の部分の掘削と土壌堆積状態の観察を行った。掘削深度は150cmで幅約2m長さ20mの範囲を掘り下げた。土層は掘削範囲全域で同一の堆積状態を示し、発見された遺構遺物は皆無であった。1工区北半分については、当該事業とは別の既設道路部分での下水道工事が並行して実施されており、その工事箇所での土層観察が可能であった。土層は南半分と全く同じ堆積状態を示しており、結論として、1工区については予定どおり工事の着工は問題ないものと判断した。



立会調査 位置図



立会現場全景

### 3-27 一般国道411号電線共同溝工事 (第2工区)に伴う立会調査

作業内容 甲州市勝沼町等々力地内

作業期間 平成28年2月25日

調査面積 10m<sup>2</sup> (調査対象面積350m<sup>2</sup>)

担当者 米田明訓・塩谷風季

甲州市勝沼町等々力地内的一般国道411号において電線共同溝工事(継続事業)を実施しているが、一部が周知の埋蔵文化財包蔵地(立正寺旧境内等)に近接している。過去、最も周知の埋蔵文化財包蔵地に近い部分を試掘しているが、遺構等は発見されていない。

今回の第2工区は第1工区より南に位置する。立会調査では重機を使用し、2工区でプレキャストボックス工(電線を連結・分配)を設置する箇所が最も深く掘削するので、その地点の掘削と土壤堆積状態の観察をおこなった。掘削深度は120cmで幅約2m長さ5mの範囲を掘り下げた。1層にアスファルト(地表より-5cm)、2層に碎石層(地表より-15cm)、以下は掘削範囲全域で搅乱(-15cmから-120cm)をうけており、金属製の産業廃棄物などが混在していた。発見された遺構遺物は皆無であった。2工区については既存の舗装された歩道の範囲内である。結論として、2工区については予定どおり工事の着工は問題ないものと判断した。



立会調査 位置図

### 3-28 国営施設機能保全事業に伴う基礎的整理

作業内容 甲州市塩山上萩原字殿林203外(殿林遺跡)

甲州市塩山下栗生野202外(安道寺遺跡)

作業期間 平成28年1月25日～3月18日

調査面積 殿林遺跡 約50m<sup>2</sup> (対象面積約50m<sup>2</sup>)

安道寺遺跡 約30m<sup>2</sup> (対象面積約30m<sup>2</sup>)

担当者 塩谷風季

農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所(以下、農水省笛吹支所と略す)は国営施設機能保全事業(平成24～33年度)として、昭和40年から60年代にかけて笛吹川の両岸に敷設された農業用管水路および閑連施設の改修を実施している。

事業対象地の箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することが確認されており、農水省笛吹支所と学術文化財課、埋蔵文化財センターとの協議に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地である殿林遺跡と安道寺遺跡において地権者より発掘調査承諾書が得られた箇所で平成27年2月に範囲確認の調査をすることとした。

調査地は重川や文殊川の段丘面で南西方向に緩やかに傾斜している。土地利用はモモやスマモを中心とした果樹園である。殿林遺跡の南部からは重要文化財に指定されている曾利式土器が出土している。

調査手順は、承諾の取れた農地に1.5m×1.5mのトレンチを殿林遺跡は17箇所、安道寺遺跡では13箇所を設定し、果樹の樹根に注意しながら人力により掘削と精査を行い、土層の観察を実施した後に現状に復した。基礎的整理では範囲確認調査で出土した殿林遺跡から土器類12点と石器類1点、安道寺遺跡から土器類617点と石器類49点、表面採集した土器類120点と石器類6点、地権者から提出された土器類207点の整理を合わせておこなう。

前記の遺物は洗浄した後にすべての遺物に出土したトレンチ番号や、表探資料には表探、地権者から提出された遺物には回収とそれぞれ注記して出土地点がわかるようにした。拓する土器類は土器表面の文様が明瞭なものや土器の口縁部や底部を主に選び出し、殿林遺跡8点と安道寺遺跡の各トレンチ170点、表探資料36点、回収資料47点を土器の断面実測と合わせた図化作業をおこなった。

殿林遺跡の遺物の出土は少なく、第5・11号トレンチより繩文中期の土器片が数点出土してのみであるが、安道寺遺跡からは土器類や石器類がすべてのトレンチより出土している。両遺跡とも曾利期の土器片だけではなく、繩文時代中期を中心とした内容である。両遺跡の遺物の出土量に偏りがあるのは、遺跡の縁辺部または中心部周辺かなどの違いによるものと思われる。報告書は次年度以降も調査計画があるので、それらと合わせて報告することとなる。



整理作業風景



土器片の拓本を探る



拓本を貼り、土器の断面を計測して実測する



打製石斧の図化作業



土器類や石器類に注記



土器片の観察情報を画面に書き込む

### 3-29 国営施設機能保全事業に先立つ詳細

#### 分布調査事業《殿林遺跡・安道寺遺跡》

所在 地 甲州市塙山上荻原・中荻原・下栗生野地内

調査期間 平成 28 年 3 月 15 日～25 日（実地踏査）

調査面積 殿林遺跡約 55,000 m<sup>2</sup>（実地踏査）

安道寺遺跡約 70,000 m<sup>2</sup>（実地踏査）

担当 者 正木季洋・柴田亮平・御山亮平・久保田健太郎

熊谷晋祐・上野桜

農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所が実施している笛吹川沿岸国営施設機能保全事業（平成 24 年度～33 年度）に先だって、平成 26 年度より実施している甲州市殿林遺跡・安道寺遺跡周辺の詳細分布調査事業は、埋蔵文化財の破壊を未然に防ぐため、両遺跡の埋蔵文化財の遺存状況や価値づけをあきらかにしていくものである。

平成 27 年度は、殿林遺跡・安道寺遺跡及びその周辺において、地形の詳細な観察や、遺物の採集・地域住民の聞き取りを目的とした実地踏査を実施した。そのために、事前準備及び過去に実施した調査の研究史についての整理を年次で行った。実地踏査にあたっては、職員が現地を確認したのち、甲州市教育委員会及び地区長と協議を行い、踏査の承諾を得た。なお、実地踏査では採集した遺物について GPS 測位機を用い、遺物の分布状況について詳細に把握するよう努めた。

殿林遺跡の周知の埋蔵文化財包蔵地は、台地及び谷部をまたがって、南北に横断するような形で登録されており、現地形をみる限り、遺跡は登録された包蔵地の範囲外に及んでいる可能性が十分に考えられた。そのため、文殊川の右岸に沿って、現状の包蔵地を東西に拡大する形で調査範囲を設定し、実地踏査を行った。結果、殿林遺跡の周辺は、文殊川の河岸段丘と小川によって開削された、いくつかの舌状台地と谷部で形成されており、縄文時代中期に該当する土器は主に台地上に分布していることが判明した。特に遺物の分布が集中していたのは、踏査範囲西側の台地上であり、現状では糠屋敷遺跡の包蔵地内にあたる。住民に聞き取り調査を実施したところ、当該地から出土したという石棒を所有していた。成果として、殿林遺跡は谷部の利用を含めいくつかの舌状台地によって構成されていたことが想定され、実際は糠屋敷遺跡とも連なる集落を形成していた可能性が高まった。登録された埋蔵文化財包蔵地の範囲外から多くの遺物が採集されており、遺跡の性格を理解し今後適切に埋蔵文化財を保護していくためにも、範囲変更を慎重に検討する必要がある。

安道寺遺跡の周知の埋蔵文化財包蔵地は、文殊川右岸の河岸段丘上に登録されており、地形とよく対応していることから、包蔵地の北東部を若干拡大するような形で調査範囲を設定し、実地踏査を行った。調査可能な範囲からは、ほぼ網羅的に遺物が採集されたが、その濃淡は明確である。過去に発掘調査が実施された農業用水利施設付近では、特に遺物が多く採集された。遺物は烟から採集したものが多かったが、煙の隅に石と同様に除けられて放置されているものも多くあった。平成 26 年度に試掘調査が実施されていない包蔵地の東側でも遺物の採集量が多く、地形も大きな落差等がなくなりながらに続いていることから、遺跡の広がりを想定できる。また、調査範囲南西側では傾斜の角度に変化が認められ、一段下がったところでは遺物の採集量が大幅に減少した。聞き取り調査では、過去の調査地点付近より発見されたほぼ完形の釣手土器を、近隣住民が保管しているとの情報を得た。また、別の住人からは調査区北東にある地形の膨らみが昔はもっと高かったとの証言があり、古墳もしくは塚等の可能性も考えられる。採集された遺物はプラスチック箱にして殿林遺跡で 1 箱、安道寺遺跡で 2 箱に及び、縄文時代中期の土器・石器が大半を占める。今後は、遺物の年代観と採集した地点を照らし合わせながら、必要に応じて試掘調査等を実施し、遺跡の広がりや性格を検討していく。



殿林遺跡（右上）安道寺遺跡（左下）

位置図（縮尺 1:50,000）

# 第Ⅲ章 県内の概況

## 1 届出件数と内容

平成 19 年度より文化財保護法施行令第 5 条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第 93 条の指示及び第 94 条の勧告に係る権限の一部を、富士吉田市を除く各市に移譲し、平成 20 年度には富士吉田市へ、平成 22 年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下の 15 市町へ文化財保護法第 93 条・第 94 条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行っている。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている自治体を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって平成 19 年度以降の届出件数について、権限移譲した分があるため県への届出件数が減少している。

平成 27 年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法 92 条：10(6) 件、法 93 条：186(184) 件、法 94 条：34(36) 件、法 96 条：0(1) 件、法 97 条：2(6) 件、法 98 条：0(0) 件、法 99 条：220(187) 件である。届出の総件数は 452(420) 件であり、前年度と比較すると、その件数は 32 件の増加となっている。

※（ ）内数字は前年度。過去 20 年間の件数の変遷は 59 頁の表のとおり。

## 2 発掘調査

平成 27 年度に実施された県内の発掘調査件数は、59 頁の表のとおり試掘調査を含めて 230(193) 件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県教委による調査が 13(14) 件、市町村教委による調査が 207(173) 件、民間調査組織による調査が 10(6) 件である。発掘調査の原因は、道路 23(20) 件、鉄道 0(0) 件、河川 0(1) 件、学校建設 3(3) 件、集合住宅 7(10) 件、個人住宅 71(38) 件、工場 0(1) 件、店舗 10(8) 件、個人住宅兼工場又は店舗 3(0) 件、その他建物 29(21) 件、宅地造成 30(39) 件、土地区画整理 2(1)、公園造成 0(0)、ガス・電気・電話・水道 1(0) 件、農業基盤整備事業 12(14) 件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業 3(0) 件、土砂採取 0(0) 件、その他開発 30(24) 件といった緊急調査と、学術調査 4(3) 件、保存目的の範囲確認 1(6) 件、遺跡整備 1(0) 件があった。緊急調査の傾向として、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては個人住宅や太陽光発電施設設置に大幅な増加傾向がみられる。※（ ）内数字は前年度。

## 3 県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成 27 年度は、県指定有形文化財（考古資料）として、安道寺遺跡出土品 8 点（深鉢形土器 3 点、有孔釦付土器 1 点、把手残欠 4 点）が 9 月 14 日に指定された。繩文時代の習俗や信仰を知る上で学術的な評価の高い一括出土遺物である。

また、史跡としては、甲府市の万寿森古墳が 2 月 22 日に県指定となった。万寿森古墳は、本県の古墳時代後期における横穴式石室の導入状況や首長層の勢力拡大分布を解明する上で重要な古墳である。これで、本県の国指定史跡は 15 件、県指定史跡は 29 件となった。

## 4 発掘調査の成果と保存整備事業

平成 27 年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて 227 件（学術調査等含む）である。

甲府市の甲府城跡では、県庁敷地内において、平成 27 年 4 月には城の正門にあたる追手門北側の石垣が、9 月には門の礎石の一部が確認され、注目された。同じく、6 月には、楽屋曲輪内に存在した石垣の一部と栗石及び水路と考えられる構造が確認された。12 月には、甲府市の調査によって柳門の控え柱の礎石が確認された。甲斐市大庭遺跡では、古墳石室 1 基が発見され、長さ 3cm ほどの大型の水晶製切子玉が多数出土するなど話題となった。

保存整備事業としては、国指定史跡である武田氏館跡（甲府市）で西曲輪南側の土塁整備と梅翁曲輪周辺の発掘調査が行われた。また、新府城跡（韮崎市）では、乾門櫓形虎口の整備と大手門周辺の発掘調査が行われた。梅之木遺跡（北杜市）では、河畔作業場周辺の護岸・盛土整備、勝沼氏館跡（甲州市）では、便益施設の再整備などが実施された。県指定史跡では、連方屋敷（山梨市）の内郭部整備や竜塚古墳（笛吹市）の墳丘保存整備が実施され、於曾屋敷（甲州市）では将来的な整備のための発掘調査が行われている。

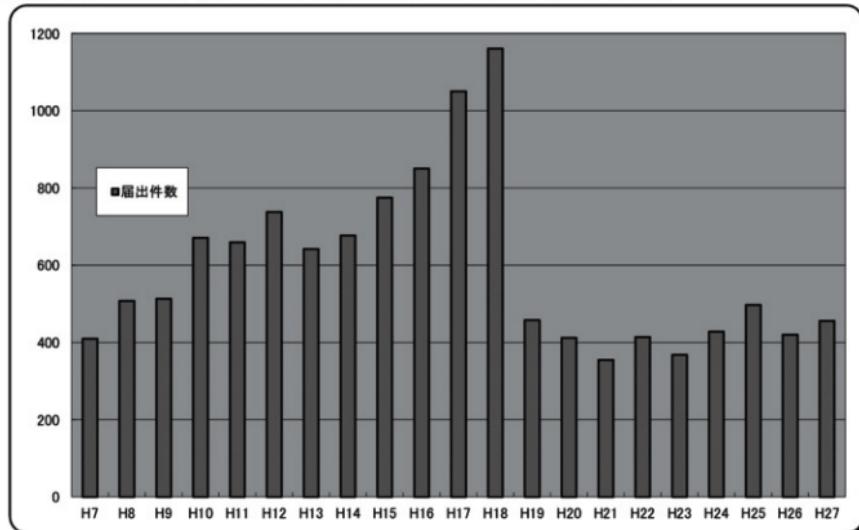
## 5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター21名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託4名、臨時職員1名）、博物館2名、考古博物館5名である。市町村では、甲府市8名（うち非常勤嘱託1名）、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市3名、笛吹市5名（うち東北派遣1名）、甲斐市2名、北杜市4名、山梨市1名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名、身延町1名、富士河口湖町1名となっている。

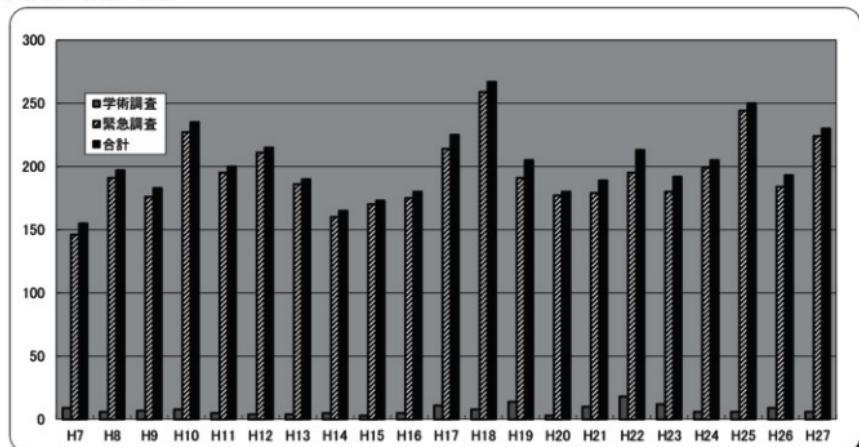
埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち16市町村で約59%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ減少している。埋蔵文化財担当職員数は54名から18名減の36名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われたことや、埋蔵文化財専門職員の配置換えが行われたことによって、配置職員数も減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。さらに文化財専門職員未設置の自治体では、文化財行政にも支障をきたす事例も発生している。

このように、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域づくりに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移※H19年度以降は専門職員配置市町内での処理件数は含まない。



#### 発掘調査件数の推移

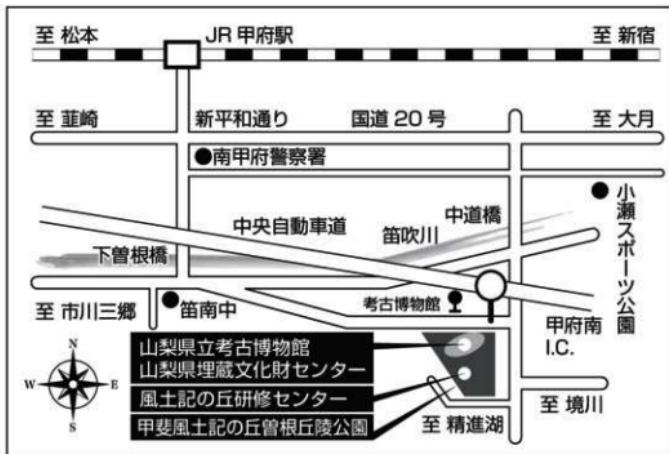




No.	地名	地名	所在地	面積(㎢)	道筋の種類	時代	調査目的	調査主体
59	足利通下町筋	足利市人手ノ下町	足利市人手ノ下町	2.40	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
60	足利通上町筋	足利市山ノ上筋	足利市山ノ上筋	100.00	官道	平安・中世・奈良・奈良・平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
61	足利通筋	足利市下町筋	足利市下町筋	12.00	官道	平安・中世・奈良・奈良・平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
62	甲斐通下町筋	足利市人手ノ下町	足利市人手ノ下町	12.00	官道	平安・中世・奈良・奈良・平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
63	人手通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	170.50	官道	平安・中世・奈良・平安	官道・官道	官道筋の整備委員会
64	甲斐通上町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	5.00	官道	平安・中世・奈良	官道・官道	官道筋の整備委員会
65	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	810.00	官道	平安・中世・奈良	官道・官道	官道筋の整備委員会
66	足利通筋	足利市人手ノ下町	足利市人手ノ下町	17.00	官道	平安・中世・奈良	官道・官道	官道筋の整備委員会
67	足利通筋	足利市人手ノ下町	足利市人手ノ下町	26.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
68	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	60.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
69	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	4.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
70	三輪通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	220.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
71	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	1100.00	官道	平安・中世・奈良	官道・官道	官道筋の整備委員会
72	六丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	106.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
73	七丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	495.12	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
74	八丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	1970.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
75	九丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	286.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
76	十丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	2006.60	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
77	十一丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	322.25	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
78	十二丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	491.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
79	十三丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	500.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
80	十四丁目通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	516.36	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
81	武藏通下町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	77.46	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
82	三輪通下町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	31.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
83	久慈通下町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	25.50	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
84	久慈通上町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	281.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
85	足利通大天守筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	16.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
86	鹿沼通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	811.84	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
87	矢内通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	516.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
88	今宿通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	3300.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
89	日向通外	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	12.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
90	上野通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	9012.50	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
91	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	11.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
92	木下・上野通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	473.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
93	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	602.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
94	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	2.60	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
95	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	2000.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
96	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	4457.94	その他	平安	官道・官道	官道筋の整備委員会
97	御宿通・奥山田通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	16.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
98	御宿通・木下・上野通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	10.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
99	中野通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	18.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
100	高瀬通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	347.04	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
101	中野通下町筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	30.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
102	日向通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	8.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
103	切妻通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	10.50	官道	平安	官道・官道	官道筋の整備委員会
104	寺尾通・奥山田通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	9012.20	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
105	寺尾通・木下・上野通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	10.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
106	寺尾通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	18.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
107	寺尾通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	347.04	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
108	寺尾通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	10.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
109	西原日向通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	1000.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
110	寺尾通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	869.69	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
111	古瀬通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	619.51	官道	平安	官道・官道	官道筋の整備委員会
112	足利通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	3005.93	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
113	高瀬通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	800.06	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
114	高瀬通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	508.72	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
115	御宿通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	1000.00	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会
116	御宿通筋	足利市人手ノ上町	足利市人手ノ上町	381.88	官道	平安・中世	官道・官道	官道筋の整備委員会

No.	通路名	所在場	面積(m <sup>2</sup> )	造物の種類	時代	重要目的	主体
118	通路標	北杜市山形町小瀬	36.00	瓦池地	昭和・平成・昭和	その他建物	北杜市山形町委員会
119	ヨリ・上原通路	高尾山山頂付近日向山	7.50	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	高尾山山頂付近日向山委員会
120	ヨリ・上原通路	高アルプス瓦池地八日坂	18.00	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	高アルプス瓦池地八日坂委員会
121	ヨリ・高尾・多賀通路	高アルプス瓦池地高尾	34.50	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	高アルプス瓦池地高尾委員会
122	水・井筒通路	高アルプス瓦池地小瀬	20.55	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	高アルプス瓦池地小瀬委員会
123	付近通路	北杜市山形町長坂上・下	1028.00	瓦池地	昭和・平成・平成・近世	その他建物	北杜市山形町長坂上・下委員会
124	木林通路	北杜市山形町大瀬	297.00	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	北杜市山形町大瀬委員会
125	木林通路	山梨県山形町大瀬	54.00	瓦池地	昭和・平成・中世	その他建物	山梨県山形町大瀬委員会
126	木林通路	山梨県山形町下野崎	20.00	その他の遺跡	昭和代	その他建物	山梨県山形町下野崎委員会
127	瓦屋通路	山梨県山形町	16.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町委員会
128	金谷通路	北杜市山形町御室川	94.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
129	御室熊野通路	北杜市山形町御室川	964.72	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
130	御室・高尾通路	北杜市山形町御室川	23.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
131	金の尾通路	北杜市山形町御室川	2039.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
132	御室外御	北杜市山形町御室川	3607.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
133	御室御	北杜市山形町御室川	113.34	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
134	御室御	北杜市山形町御室川	23.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
135	三ヶ所通路	山梨県山形町	45.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町委員会
136	御室御	山梨県山形町上今井	9.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町上今井委員会
137	御室御下通路	高アルプス瓦池地上今井	4.29	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高アルプス瓦池地上今井委員会
138	御室御	高アルプス瓦池地上今井	21.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高アルプス瓦池地上今井委員会
139	御室御	北杜市山形町御室川	717.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
140	御室御	北杜市山形町御室川	3612.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	北杜市山形町御室川委員会
141	木林通路	山梨県山形町御室川	878.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町御室川委員会
142	木林通路	山梨県山形町御室川	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町御室川委員会
143	木林通路	山梨県山形町御室川	869.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町御室川委員会
144	木林通路	山梨県山形町御室川	2.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町御室川委員会
145	ヨリ・上原通路	高アルプス瓦池地上八日坂	24.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高アルプス瓦池地上八日坂委員会
146	木日坂通路	高アルプス瓦池吉田	24.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高アルプス瓦池吉田委員会
147	木日坂通路	高アルプス瓦池吉田	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高アルプス瓦池吉田委員会
148	木日坂通路	山梨県山形町吉田	22.50	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	山梨県山形町吉田委員会
149	木日坂通路	河口湖町木口湖	2.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	河口湖町木口湖委員会
150	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
151	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
152	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
153	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
154	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
155	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
156	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
157	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
158	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
159	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
160	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
161	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
162	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
163	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
164	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
165	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
166	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
167	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
168	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
169	木日坂通路	高尾山山頂付近木口湖	1.00	瓦池地	昭和・中世	瓦屋	高尾山山頂付近木口湖委員会
170	木日坂通路	木日坂	18.00	瓦池地	昭和・中世・近世	その他建物	木日坂委員会
171	木日坂通路	中央市下野坂	40.00	瓦池地	昭和・中世・近世	その他建物	中央市下野坂委員会
172	羽庭通路	高アルプス瓦池質見	8.00	瓦池地	昭和・中世	その他建物	高アルプス瓦池質見委員会

No.	道 線 名	西 在 地	西 面 (m)	面積 (ha)	面積の種類	時 代	主 題	調査目的	調査主 体
173	自縫地外	海アルゴン市街地	6.00						海アルゴン市教育委員会
174	海アルゴン市街地	平野市高砂町 1 丁目	108.00	台原地	水田・台原・苗床・平安		生垣地図	平野市教育委員会	
175	海アルゴン市街地	109.00	台原地	中野・台原	水田・台原		生垣地図	平野市教育委員会	
176	海アルゴン市街地	110.00	台原地	中野・台原	水田・台原		生垣地図	平野市教育委員会	
177	海アルゴン市街地	110.00	台原地	中野	水田・台原		生垣地図	平野市教育委員会	
178	海アルゴン市街地	110.00	台原地	中野・台原	水田・台原		生垣地図	平野市教育委員会	
179	海アルゴン市街地	110.00	台原地	中野	水田・台原		生垣地図	平野市教育委員会	
180	自縫地外	山梨市上山内川	150.00	台原地	中野			山梨市教育委員会	
181	自縫地外	山梨市上山内川	20.00					山梨市教育委員会	
182	自縫地外	新十河口町御所山	7.50	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
183	自縫地外	新十河口町御所山	2.00	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
184	自縫地外	新十河口町御所山	235.61	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
185	自縫地外	新十河口町御所山	310.44	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
186	自縫地外	新十河口町御所山	310.44	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
187	自縫地外	新十河口町御所山	310.44	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
188	自縫地外	新十河口町御所山	339.78	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
189	自縫地外	新十河口町御所山	194.36	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
190	自縫地外	新十河口町御所山	231.41	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
191	自縫地外	新十河口町御所山	12.12	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
192	自縫地外	新十河口町御所山	12.80	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
193	自縫地外	新十河口町御所山	36.89	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
194	自縫地外	新十河口町御所山	40.00	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
195	自縫地外	新十河口町御所山	1835.00	台原地	中野			新十河口町教育委員会	
196	海アルゴン市街地	上野原市大字御所	2.00	台原地	中野			上野原市教育委員会	
197	海アルゴン市街地	北佐久高根町御所	827.03	台原地	中野			北佐久高根町教育委員会	
198	自縫地外	山梨市小字西	70.00	台原地	中野			山梨市教育委員会	
199	海アルゴン市街地	山梨市小字御所加賀	46.50	台原地	中野			山梨市教育委員会	
200	海アルゴン市街地	山梨市小字御所加賀	79.00	台原地	中野			山梨市教育委員会	
201	中民地外	山梨市七日市御所地内	650.00	台原地	中野			山梨市教育委員会	
202	中民地外	新村町御所	40.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
203	中民地外	新村町御所大字八日川	647.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
204	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	20.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
205	中民地外	新村町御所大字八日川	182.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
206	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	275.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
207	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	271.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
208	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	275.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
209	自縫地外	新村町御所大字八日川	144.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
210	自縫地外	新村町御所大字八日川	144.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
211	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	594.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
212	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	900.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
213	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	914.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
222	自縫地外	新村町御所大字八日川	80.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
224	カタチ・太陽・雲	新村町御所大字八日川	330.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
225	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	4054.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
226	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	632.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
227	海アルゴン市街地	新村町御所大字八日川	120.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
228	中民地外	新村町御所大字八日川	205.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
229	中民地外	新村町御所大字八日川	140.00	台原地	中野			新村町教育委員会	
230	自縫地外	新村町御所大字八日川	272.17	台原地	中野			新村町教育委員会	



●路線バスご利用

甲府 - 豊富（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスのご利用（2時間）

新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒步5分

南甲府インターバス・徒步10分

---

## 年報 32

印刷日 2016年8月29日

発行日 2016年9月2日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3881・055-266-3016

FAX 055-266-3882

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 株式会社 峠南堂印刷所

山梨県甲府市丸の内1-10-1

TEL 055-235-2528

---